２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅠ (Carrier PlanningⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	村上　弘志
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道をみつけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。

【到達目標】

・セルフマネジメント（自己理解）を実践できる。
・チームマネジメント（協働作業）を実践し、集団での役割を果たすことができる。
・自己の働く意義（勤労観・職業観）を説明できる。
・目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。
・自己実現（夢をかなえる）のための目標設定をし実践できる。

授業計画・内容	
1回目	集団（クラス）づくりの理解と実践　1年間の流れ確認（学生便覧）、クラス規範確認・目標決め①、学習能力チェックプログラム
2回目	セルフマネジメント①　1週間の振り返り、「習慣」プリント配布～8つの習慣～、クラス目標決め②
3回目	セルフマネジメント②　GWの過ごし方～1週間をどう過ごすのか～、安全講習～動画（サイバー犯罪編）～
4回目	セルフマネジメント③　GWの振り返り
5回目	チームマネジメント①　学園祭準備活動①
6回目	チームマネジメント②　学園祭準備活動②、日常行動スコア～クラスの中の自分の役割を知る～
7回目	グループワーク①　学園祭準備活動③、「ホスピタリティ」について
8回目	グループワーク②　学園祭の振り返り
9回目	グループワーク③　「私は建築家」～聴く力を持つ～
10回目	グループワーク④　夢への一歩を踏み出す勇気を身につける
11回目	グループワーク：成功の原則～卒業生たちから見る行動の原則～、クラス目標の達成度確認
12回目	グループワーク：夏休みの取り組みの振り返りとこれからの目標設定、スポーツフェスタ準備活動①
13回目	夏休みの振り返り、スポーツフェスタ準備活動②
14回目	評価週、解答解説、スポーツフェスタ準備活動③
15回目	前期振り返りと後期に向けての準備、スポーツフェスタ準備活動④
準備学習 時間外学習	・日々の学校生活を記録に残す ・動物業界を知る ・動物施設での校外学習に参加する ・事前課題など各種レポートを書く
評価方法	・集団（クラス）での役割の理解と実践　（50%） ・授業参加状況　（30%） ・期末試験（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・学生便覧
・Hand－book　of　Life　Style

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアプランニングⅠ （ Carrier PlanningⅠ ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	村上　弘志
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道をみつけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。

【到達目標】

・セルフマネジメント（自己理解）を実践できる。
・チームマネジメント（協働作業）を実践し、集団での役割を果たすことができる。
・自己の働く意義（勤労観・職業観）を説明できる。
・目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。
・自己実現（夢をかなえる）のための目標設定をし実践できる。

授業計画・内容	
1回目	自己理解　①　スポーツフェスタの振り返り、後期に向けた目標確認（学生便覧）
2回目	自己理解　②　働く意義（勤労観・職業観）を理解し考える
3回目	自己理解　③　履歴書とは、作成方法
4回目	自己理解　④　半年を振り返って、自己理解のための振り返り及び目標設定
5回目	自己理解　⑤　私の四面鏡～自分の強みを知る～
6回目	企業研究　①　先輩から学ぶ業界研修について
7回目	企業研究　②　卒業生から学ぶ業界研修について
8回目	社会人準備　①　夢をかなえた先輩たちの「行動の原則　＋α」を学ぶ
9回目	社会人準備　②　ガンの群れ～協調性とは～
10回目	「集団での役割」の理解と実践　①　WeareECO準備活動
11回目	「集団での役割」の理解と実践　②　WeareECO準備活動
12回目	「集団での役割」の理解と実践　③　WeareECO準備活動、今年の振り返り～今年の自分を表す漢字を一文字で表現～
13回目	「集団での役割」の理解と実践　④　WeareECO準備活動、今年の個人目標発表
14回目	WeareECO～調べ学習クラス内発表～
15回目	学校生1年間の振り返り
準備学習 時間外学習	・日々の学校生活を記録に残す ・動物業界を知る ・動物施設での校外学習に参加する ・事前課題など各種レポートを書く
評価方法	・集団（クラス）での役割の理解と実践　（50%） ・授業参加状況　（30%） ・期末試験（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・学生便覧
・Hand－book　of　Life　Style

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	プレゼンテーションⅠ （Presentation Ⅰ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代　マキ
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日4時限

【授業の学習内容】

社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。
表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習する。

※担当教員実務経験：キャリアカウンセラー（技能士2級）、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリヤ教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。

【到達目標】

元気な挨拶ができるようになる。
相手の立場を考えて話す力を身に付けることができる。
文章組み立て力を身に付けることができる。
周りと協力する力を身に付けることができる。
復習力を身に付けることができる。

授業計画・内容	
1回目	授業の内容と意義について
2回目	なぜ学校で学ぶのか？グループワーク討議・伝え方のポイント
3回目	言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて
4回目	表情の意味・視線伝達マーク
5回目	相手意識を持った伝え方自己表現練習
6回目	聞くと聴くの違いと、きき上手のポイント
7回目	他己紹介準備
8回目	他己紹介
9回目	報告の仕方・PREP法を身につける。
10回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション準備
11回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション披露
12回目	言葉遣いと敬語の使い方①グループで美化語見つけ
13回目	言葉遣いと敬語の使い方②敬語を使用しての場面練習
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	プレゼン力：40％ 傾聴力：30％ 筆記試験30％

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	プレゼンテーションⅠ （Presentation Ⅰ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代　マキ
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日4時限

【授業の学習内容】

社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。
表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習する。

※担当教員実務経験：キャリアカウンセラー（技能士2級）、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリヤ教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。

【到達目標】

前期の目標に続き、更にグループの中の個の役割を果たす努力ができる。
会話力やプレゼンテーション力を磨き現状の自分を知り、自信をもって、主体的に人と関わって行けるようになる。

授業計画・内容	
1回目	後期の目標設定
2回目	ストレス対策　性格の作られ方
3回目	効果的な質問の方法　他己紹介後期編準備
4回目	他己紹介　自己成長評価
5回目	バーバルコミュニケーションとグループワーク
6回目	ノンバーバルコミュニケーションとグループワーク
7回目	中間評価
8回目	仕事遂行能力ペアワーク
9回目	仕事遂行能力グループワーク
10回目	グループワークディスカッションと発表（意見とアイデア）
11回目	グループワークディスカッションと発表（課題解決）
12回目	一年間の成長プレゼン①
13回目	一年間の成長プレゼン②
14回目	後期評価テスト
15回目	後期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	プレゼン力：40％ 傾聴力：30％ 筆記試験30％

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	コミュニケーションスキルアップ （ Improving Communication Skills ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	セレーノ・コーポレーション
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業		2	曜日・時限	木曜日3限目

【授業の学習内容】

社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。

※担当教員：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。

【到達目標】

12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、
豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	授業の進め方、オリエンテーション（自己紹介）、コミュニケーションの定義【P9～】
2回目	第一印象（コミュニケーションの定義、メラビアンの法則、笑顔の作り方）【P14～】 基本的対話スキル、会話のプロセス
3回目	基本的対話スキル 「話し方」【P18～】
4回目	基本的対話スキル 「聴き方」【P23～】
5回目	基本的対話スキル 「グループでの会話」【P34～】
6回目	ロープレ：情報共有、整理・集約のゲーム①、中間試験対策
7回目	中間試験、自己表現スキル 「挨拶」「自己表現」【P42～】
8回目	中間評価フィードバック、自己表現スキル 「上手な頼み方、断り方」「自己主張」【P46～】
9回目	自己表現スキル 「報連相」「会議・ミーティング」【P60～】
10回目	自己表現スキル 「アンガ―マネジメント」【P80～】
11回目	社会的スキル 「基本的な社会的スキル」【P94～】
12回目	社会的スキル 「挨拶」「敬語」「電話応対」【P96～】
13回目	前期評価テスト　対策
14回目	前期評価テスト　実施　試験後、教科書のポイントを再度伝え、内容を理解させる
15回目	前期評価テスト　解説 後期の授業の進め方
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておくこと。
評価方法	試験100％

【使用教科書・教材・参考書】

コミュニケーションスキルアップ検定（JESC）

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	コミュニケーションスキルアップ （ Improving Communication Skills ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	セレーノ・コーポレーション
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業		2	曜日・時限	木曜日3限目

【授業の学習内容】

社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。

※担当教員：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施。

【到達目標】

12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、
豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	ロープレ：ビジネス電話検定、電話応対ゲーム
2回目	社会的スキル 「接客」「訪問」【P105～】
3回目	社会的スキル 「謝罪」【P112～】
4回目	ロープレ：接客、訪問、名刺交換
5回目	社会的スキル 「ビジネス文書」「メール」「FAX」「SNS」【P116～】
6回目	中間試験対策
7回目	中間試験、サービスマインドとは
8回目	中間評価フィードバック DVD鑑賞　マナーの本質 「相手を思いやる心」
9回目	サービスマインド 「サービスとは」「サービスの心得」【P126～】
10回目	サービスマインド 「サービス基本要素」【P132～】
11回目	ロープレ：ビジネスシュミレーションゲーム（敬語・電話応対・訪問・接客）
12回目	謝罪（謝る、お詫びする） マナーを意識した行動
13回目	後期期末試験対策
14回目	後期期末試験、ビジネスシュミレーションワーク
15回目	1年間の総復習、ロープレ
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておくこと。
評価方法	試験100%

【使用教科書・教材・参考書】

コミュニケーションスキルアップ検定（JESC）

2023年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ホスピタリティ （　hospitality　）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	松岡　尚美
		授業形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日　5時限

【授業の学習内容】

日本ホスピタリティ推進協会「ホスピタリティ・コーディネータ」資格を取得した講師から、教本をベースにホスピタリティのフレームを理解し、サービスとホスピタリティの違いや対応力、ホスピタリティ・マインドを学ぶ。様々な業界の事例を参考にし、現場で自ら考え実践できることを目指す。

※担当教員実務経験：藤田観光株式会社ワシントンホテル　宿泊部フロント課勤務。
2017年3月　日本ホスピタリティ推進協会「ホスピタリティ・コーディネータ」資格取得。

【到達目標】

理論と実践の両面からホスピタリティを理解し、マインドとスキルを習得する。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：講義の説明　感動を与えるホスピタリティ（京王プラザホテルのホスピタリティ動画視聴）
2回目	サービスとホスピタリティの違いと語源　日本のおもてなし文化
3回目	5つ星ホテルで働くコンシェルジュの最上級のおもてなし　顧客目線に立つことの理解
4回目	ホスピタリティの実践①　笑顔の作り方、身だしなみ、立ち居振る舞いを身につける
5回目	ホスピタリティの実践②　話し方、効果的な傾聴、言葉遣いなど対応力を磨く
6回目	顧客ロイヤルティとホスピタリティの関係性
7回目	組織と社員（従業員）のホスピタリティ、「ゴールデンサークル理論」から学ぶリーダーシップ
8回目	ご高齢者や障がいのある方への対応と気遣い
9回目	異文化コミュニケーション　「やさしい日本語」を使ったコミュニケーションを理解し異文化適応力を身につける
10回目	クレームが起きる原因とお客様心理を理解し対応力を身につける
11回目	ホスピタリティ産業に求められるQSCを理解する
12回目	ハラスメントやコンプライアンスについて正しく理解する
13回目	SDGsについて理解する
14回目	評価：レポート提出
15回目	前期講義のまとめ
準備学習 時間外学習	ホスピタリティ・マインドを身につけるためには、「相手の立場に立つ」ことや「相手を思いやる」ことを意識し行動することで身についてくる。 また、ホスピタリティに関する書籍を自ら進んで読むことや感動体験を積むなど、感性を磨く。 授業前後での予習と復習を必ず行うこと（ホスピタリティ・コーディネータ教本の熟読）。
評価方法	「ホスピタリティ実践レポート」(2000文字以上/word作成)：100% レポート作成にあたり、書き方やwordの書式など細かいルールがありますのでルールは必ず守ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

【教科書】ホスピタリティ・コーディネータ教本/日本ホスピタリティ推進協会
【参考書】図解版ホスピタリティの教科書/林田正光　著

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアサポートアップ （ Improving Career Skills ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中山　麻見
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日1時限

【授業の学習内容】

就職活動の基本である自己分析と企業研究の必要性を学び、志望動機、自己PRを完成させ、履歴書を自立して作成できるようになる。
また発声練習やグループワークを通して、効果的な自己表現を可能にし、自信を持って面接に挑み、結果を手にしていく。

※担当教員：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より就職講座・コミュニケーション講座等に
従事している講師を招き、授業を実施。

【到達目標】

・自己分析（理解）によって、自分の強み、弱みを効果的に伝えられるようになる。
・履歴書、エントリーシートが自立して書けるようになる。
・自己分析、企業研究によって、自分の目指す企業のマッチングが可能になり、適切な面接対策ができる。
・個人面接、集団面接など、様々なケースを想定し、ロールプレイングを通じて、自己表現に自信が付く。
・小論文の基本的書き方を習得する。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション　就職活動において現在地を確認し、ゴール設定ができる
2回目	自分の適性を知る　分析ツールを使って強みの原点を把握できる
3回目	自己分析の基礎①希望業種に内定するために現状を知り、就職活動の全体像を掴むことが出来るようになる
4回目	自己分析の基礎②希望業種に内定するために現状を知り、就職活動の全体像を掴むことが出来るようになる
5回目	企業研究・業界分析の仕方について①　グループワークを行い広い視野を養うことができる
6回目	履歴書の書き方　　形式を遵守した上で、自分らしい履歴書が書けるようになる。
7回目	面接対策①　面接の全体像が把握できる
8回目	面接対策②　見た目・中身の両方に対する戦略が分かる
9回目	面接対策③　模擬面接　お互い分析、フィードバックすることで客観的に自分を把握することができる
10回目	WEB面接対策
11回目	適性検査対策
12回目	論理的文章の書き方　作文・小論文　①
13回目	論理的文章の書き方　作文・小論文　②
14回目	試験
15回目	総まとめ
準備学習 時間外学習	配布物で予習・復習を行うこと。
評価方法	試験80%　提出物20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習 (Computer Skills Practice)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	井口　恵美里
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく。
前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する。
前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。
基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。

※担当教員：長年滋慶学園各校でコンピュータ授業を担当。

【到達目標】

教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる。
Wordを使ってレポート作成が出来るようになる。
安全にインターネットを利用できるようになる。
「We are ECO」のスライドが作れるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／ITリテラシー①
2回目	ITリテラシー②
3回目	Wordの基本操作①
4回目	Wordの基本操作②
5回目	Wordの基本操作③
6回目	Wordの基本操作④
7回目	Wordの基本操作⑤
8回目	Word中級編①
9回目	Word中級編②
10回目	Word中級編③
11回目	Wordの応用①
12回目	Wordの応用②
13回目	Wordの応用③
14回目	期末評価/Wordの応用まとめ
15回目	PowerPoint基礎①
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作のを確認する。
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%)　※中間・期末の評価は提出作品（Word作品提出）

【使用教科書・教材・参考書】

・COMPUTER　BASIC　WORD　2019　（株式会社滋慶出版）
・COMPUTER　BASIC　EXCEL　2019　（株式会社滋慶出版）

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習 (Computer Skills Practice)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	井口　恵美里
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく
後期は「Excel」を使い「計算式が入った表」や「読みやすいグラフの作り方」を勉強していく
Excelへの苦手意識を少しでも減らす講義にする
基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。

※担当教員：長年滋慶学園各校でコンピュータ授業を担当。

【到達目標】

Excelへの苦手意識を少しでも減らし、教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる。
Excelを使って計算式が入った表やグラフが作成出来るようになる。
「We are ECO」のスライドを作成することが出来るようになる。

授業計画・内容	
1回目	PowerPoint基礎（印刷、スライドマスター、切り替え効果、アニメーション）
2回目	PowerPoint課題提出
3回目	Excelの基礎①
4回目	Excelの基礎②
5回目	Excelの基礎③
6回目	Excelの基礎④
7回目	Excel中級編①
8回目	Excel中級編②
9回目	Excel中級編③
10回目	Excel中級編④
11回目	Excelの応用①
12回目	Excelの応用②
13回目	Excelの応用③
14回目	期末評価/Excel応用まとめ
15回目	まとめ(Word・Excel・PowerPoint)
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作のを確認する。
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%)　※中間・期末の評価は提出作品（PowerPoint作品提出・Excel作品提出）

【使用教科書・教材・参考書】

・COMPUTER　BASIC　WORD　2019　（株式会社滋慶出版）
・COMPUTER　BASIC　EXCEL　2019　（株式会社滋慶出版）

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	アニマルベーシック (Animal Study Basics)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

動物に関する勉強をする場合の生物学的基礎知識を理解する。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

基礎生物学の知識を身につけることにより、動物業界で活躍する人材になることを目標としている。

授業計画・内容	
1回目	光合成・食物連鎖、血液の役割・成分・生成、消毒滅菌について理解できる。
2回目	ズーノーシス、濃度計算と希釈法、バイタルサイン、生体防御システムについて理解できる。
3回目	エイズと免疫、アレルギーと免疫、ワクチンと免疫、外分泌と内分泌、代謝について理解できる。
4回目	五大栄養素、遺伝、繁殖、イヌとネコの交配について理解できる。
5回目	DNA・遺伝子・ゲノム、体細胞クローン動物、外来種、絶滅危惧種について理解できる。
6回目	温暖化、酸性雨、オゾンホール、エコロジー関連の国際条約について理解できる。
7回目	評価及び振り返り
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

株式会社滋慶出版 「ECO業界で役立つ基礎生物」

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物の体のしくみ (Animal Anatomy and Physiology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

犬を中心とした基本的な動物の体の構造・骨格や生理的な知識について、理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

犬の体を構成する各機関の位置、構造、機能をそれぞれ理解することにより、動物の飼養管理や疾病予防に役立つことを目標とする。

授業計画・内容	
1回目	外皮系、消化器系（歯・食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆のう・膵臓）の構造と働きについて理解できる。
2回目	泌尿器系（腎臓・膀胱）、呼吸器系（気管・肺）の構造と働きについて理解できる。
3回目	生殖器系（雄性生殖器・雌性生殖器）、内分泌系（下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・胸腺）の構造と働きについて理解できる。
4回目	循環器系（心臓・血液循環・リンパ系）、感覚器系（眼球・耳）の構造と働きについて理解できる。
5回目	神経系（脳・脊髄）、筋系（骨格筋・横隔膜）の構造と働きについて理解できる。
6回目	骨格系（骨格）、細胞の構造と働きについて理解できる。
7回目	評価及び振り返り
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

株式会社滋慶出版 「イラストで見る動物の体のしくみ（ECO専門基礎科目テキストセット）」

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物の健康管理 (Animal Health Management)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解できている。

授業計画・内容	
1回目	ウォンバット・キツネ・キリン・カンガルーなどの飼養管理について理解できる。
2回目	クマ・タヌキ・ゾウ・ニホンザルなどの飼養管理について理解できる。
3回目	アザラシ・イルカ・ウミガメ・クラゲなどの飼養管理について理解できる。
4回目	イヌ・ネコ・ウサギ・インコ・モルモットなどの飼養管理について理解できる。
5回目	ウシ・ウマ・ニワトリ・ブタなどの飼養管理について理解できる。
6回目	評価及び振り返り
7回目	まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

株式会社滋慶出版 「イラストで見る動物の体のしくみ（ECO専門基礎科目テキストセット）」

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	アニマルヒストリー (History of Interconnections between Animals and Humans)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

広い視野と柔軟な考え方を持ち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標とする。

授業計画・内容	
1回目	動物の進化とゲノムDNAの進化について理解できる。
2回目	イエイヌの歴史、人間と家畜の歴史、動物の仕事に携わる者としての倫理を理解できる。
3回目	ペットビジネスの種類を理解し、環境を守る観察と観光について知識を深めることができる。
4回目	動物介在療法（AAT）と動物介在活動（AAA）、動物が人に与える効果について、セラピーに向く動物の育成、ペットロスについて、理解できる。
5回目	牧羊犬、警察犬、救助犬、身体障害者補助犬法、盲導犬、介助犬、聴導犬、ズーノーシスについて理解できる。
6回目	評価及び振り返り
7回目	まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

株式会社滋慶出版 「動物年表で知るアニマルヒストリー（ECO専門基礎科目テキストセット）」

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	次世代のための環境教育 (Environmental Study for the Next Generation)	必修選択	必須	年次	1	担当教員	高田　浩二
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限

【授業の学習内容】

環境教育という言葉は、45年前の1975年に国連のベオグラード憲章の中で提唱された言葉である。また、我が国の公害も水俣病のように1950年代からすでに問題になっており、環境に対する人々の興味関心を高める教育は半世紀以上前から重要視されてきていた。近年、SDG’sやマイクロプラスチックが注目されているが、環境教育は近年のトレンドではない。私たちは古くからあった環境問題を学ぶために誰からどのような機会を与えられてきたか、またそもそも地球にとって環境とはなにかを知っておく必要もある。本講義では地球環境や環境教育に対する基礎から応用までを解説し、それぞれに理解できることで、次世代の環境に対する認識や知識の習得を目指す。

※担当教員実務経験：海と博物館研究所長。1988年6月～海の中道海洋生態科学館に勤務し（2004年～2016年は館長を歴任）。その後、2019年3月まで福山大学生命工学部海洋生物科学科教授を務める。水族館に限らず、広く博物館学や学芸員養成課程にも従事し、福岡県内の大学でも教鞭をとってい

【到達目標】

講師が長年勤務してきた水族館の環境教育の展示や解説、教育普及の活動、また、生き物の命を預かる場でもある水族館の役割などにも理解を深める。さらに、そもそも私たちの住む地球がどれほど奇跡的な出来事の繰り返しで今日の環境ができているかについて、具体的な環境因子ごとに、例えば「光」という当たり前の存在が宇宙誕生から今までの悠久の時間の流れの中での影響についても関心を深める。
＜具体的な目標＞
目標①水族館や博物館の役割の中で、環境教育にどれほど寄与できるかに気付くことができる。
目標②地球上の様々な環境因子が、生物やその進化にどう影響を与えて今の環境があるかに気付く。
目標③多くの環境問題の実態を知り、自分がどのように行動すべきか、具体的なイメージをつかむことができる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)海の命から学ぶ環境教育　水族館の役割の中にある環境教育に気付く。
2回目	(目標①)ヒトが動物を飼う(命を預かる)環境とは　動物園水族館に限らず、ペットや畜産などにおける人の飼育という行為や環境に理解を深める。
3回目	(目標②)環境要因　光と生物1　光とは何かについて宇宙物理学的視点から生物への影響に気付き、環境要因の1つである光に理解を深める。
4回目	(目標②)環境要因　光と生物2　光が生物進化のなかでどのように環境因子として関係してきたかについて理解をする。
5回目	(目標②)環境要因　光と生物3　光と色の関係やそれらが生物の目の発達にどう影響してきたか気づく。
6回目	(目標②)環境要因　生物の住環境について生態学という側面から考えることができるようになる。
7回目	(目標②)環境要因　鉄と生物1　地球環境における鉄の循環が生物にとって重要な呼吸にどう関与しているかを知る。
8回目	(目標②)環境要因　鉄と生物2　生物の呼吸の仕組みが環境とどう関係しているか、呼吸確保の仕組みを知る。
9回目	(目標②)環境要因　塩分と生物　水辺にすむ生物が塩分と生息環境がどう関与しているか気づく。
10回目	(目標②)環境要因　振り返り学習　地球誕生のYouTube教材視聴と感想交流することで他の学生と学びを深める。
11回目	(目標③)海洋プラスチック問題と博物館　近年になって問題されるマイクロプラスチックによる海洋汚染に博物館はどう関与できるかを知る。
12回目	(目標③)欧米の水族館における環境教育とその展示　環境教育先進国での事例から我が国の水族館の在り方を考える。
13回目	(目標③)動物愛護や環境保全に関する法律と水族館　環境問題に関する法律を知ることで自分の行動の在り方に気付く。
14回目	評価試験と振り返り
15回目	評価試験解説、模範解答
準備学習 時間外学習	(目標①)できるだけ多くの博物館、水族館を見学、もしくはウェブサイト経由で訪問する。 (目標②)中学校時代の理科学習(物理、地学、生物、化学)を多面的な視点で振り返ってみる。 (目標②)日常の身の回りの出来事になぜ、どうしてという気持ちや視点で見つめなおす。 (目標③)これからの水族館や博物館がどうなっていくか環境問題との関連から想像する。
評価方法	毎回の講義に簡単な授業感想を書いて提出すること。 13回目のワークショップは制作物で評価する。中間テストは行わない。 ●授業感想と制作物(10%) ●定期テスト(90%) 上記の割合で成績評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】

水族館の仕事、「西源二郎・猿渡敏郎」編著　東海大学出版会。海洋プラスチックごみ問題の真実、「磯辺篤彦」著　DOJIN選書。

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	次世代のための環境教育 （Environmental Study for the Next Generation）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大橋 光雄
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 3時限

【授業の学習内容】

環境問題の概略を理解し、ジレンマや事例研究を参考にトリレンマ懸案をどのように自分たちの職場や社会にしていくか、またワークショップ（workshop）を用い読み解く力をつける。

※担当教員実務経験：福岡県キャンプ協会会長歴任後、現名誉会長。（公益社）日本キャンプ協会　元理事・専門委員。
アメリカ冒険学校「THE NATIONAL OUTDOOR LEADERSHIP SCHOOL」へ留学、WRWコース終了。
キャンプディレクター1級とプロジェクトワイルド上級指導者資格を有し、多くのキャンプイベントや執筆、普及活動に携わる。

【到達目標】

自分たちの業界と環境問題のつながりを知り、環境教育の必要性と目的を理解する。また、自然環境の一員としての人間の位置づけを環境倫理の面から掘り下げて考察する。
その上で主に9のカテゴリーで環境教育を紐解き多様な考えや社会経済との結びつきを考えることができるようになる。
各時間の授業のPPTを用い内容にそった講義とワークショップ（workshop）を通して理解を深めるようにする。
また、実際に今の環境教育が考えられるように新聞報道や環境教育の取り組みアクティビティ等演習を実施する。

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・環境教育の必要性と目的
2回目	世界の環境問題1（地球温暖化）海洋のメカニズム
3回目	世界の環境問題2（海洋と生物多様性）仕組みと身近な事例
4回目	世界の環境問題3（オゾン層の破壊）
5回目	世界の環境問題4（海洋汚染～ゴミ問題～食糧問題）
6回目	環境問題の啓発者の探る1．Severn Cullis-Suzuki　リオの伝説のスピーチを読み解く
7回目	環境問題の啓発者の探る2．　世界の環境教育の流れ「ベオグラート憲章」
8回目	日本の環境教育の流れ「関心・理解・行動」日本型の検証
9回目	環境教育における環境倫理　酸性雨・海洋汚染　マイクロプラスチック
10回目	環境教育における環境倫理　有害廃棄物の越境移動
11回目	環境教育における環境倫理　水生生物種の減少1　マイクロプラスチック
12回目	環境教育における環境倫理　水生生物種の減少2　マイクロプラスチック
13回目	環境教育における環境倫理　ジレンマからトリレンマ　砂漠化
14回目	理解度の確認　Q&A　環境クイズ　エコ検定
15回目	試験の解説と補足
準備学習 時間外学習	毎回動画や新聞を題材に用いアクティブラーニングESD（Education for Sustainable Development）　SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）等を用いる。世界の動きやニュースソースに関心を持ち環境用語を理解しておくこと。
評価方法	定期試験:80% 発表:10% 受講出席率:10%

【使用教科書・教材・参考書】

適宜　資料を配布する。 また授業理解のためのミニテストを行う。

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	海洋自然観察概論 (Introduction to sustaining Ocean Nature Observation)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	菅原　茂 （他PACIの特別講師）
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3・4時限

【授業の学習内容】

本講義は環境促進法（略称）に基づきプログラムされ、環境省に「インタープリター入門講座」として登録されている（環境省のホームページ参照：http://www.env.go.jp/policy/post_122.html）。全教習23時間強にわたる構成となっている。NPO法人PACI・国際海洋自然観察員協会設立依頼20年強の歴史を誇り、学校法人滋慶学園との契約により専門学校ではCOMグループのみ受講できる講座。昨年までの受講者数は7,000名を超え、水族館に就職した学生約2,100名、ダイビング約1,000名。アクアショップ約1,800名、ホエールウォッチング、ドルフィンスイム、自然学校など約700名、と80％以上海洋業界の仕事に進んでいる。

※担当教員実務経験：明治大学政治経済学部卒。あわしまマリンパーク・総支配人、淡島水族館・館長、NPO法人PACI国際海洋自然観察員協会・代表理事、TCA東京エコ動物海洋専門学校・副校長、NPO法人CNAC海に学ぶ体験活動協議会・理事。
代表菅原の他、イルカの行動学、クジラの専門家、自然学校・所長、ドルフィンスイム東京都公認ガイド、カナダのシャチ研究家など
その道のプロ約10名強のPACI非常勤講師の特別講義により構成されている。

【到達目標】

出席80％以上、テスト70点以上の学生は「環境省登録・環境教育促進法（略称）に基づく「インタープリター養成講座」受講終了証（PACIカード）を発行する。

授業計画・内容	
1回目	PACIのビジョン・活動目的・目的を理解する。インタープリターとは何か。活動の意義と目的。修得スキルと到達目標。
2回目	野生のイルカ・クジラ写真集の解説、そして贈る言葉。「燃える決意」レポート作成し、発表。（1分間スピーチはレポートを見ずに語る）。シラバス・フィールド授業・特別講義の解説。
3回目	3回～10回：フィールド実習「もじ少年自然の家」、テーマ：①海の安全講習、②SDGs実践としてのクリーンアップ作戦、③「スナメリウォッチング」を主体に海遊びレシピの実践
4回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング＆海あそび＆SDGs海辺のクリーンアップ作戦
5回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング＆海あそび＆SDGs海辺のクリーンアップ作戦
6回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング＆海あそび＆SDGs海辺のクリーンアップ作戦
7回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング＆海あそび＆SDGs海辺のクリーンアップ作戦
8回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング＆海あそび＆SDGs海辺のクリーンアップ作戦
9回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング＆海あそび＆SDGs海辺のクリーンアップ作戦
10回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング＆海あそび＆SDGs海辺のクリーンアップ作戦
11回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング＆海あそび＆SDGs海辺のクリーンアップ作戦「振り返りレポート作成」
12回目	PACI国際海洋自然観察員協会、非常勤講師の特別講義
13回目	PACI国際海洋自然観察員協会、非常勤講師の特別講義
14回目	「インタープリターをやってみよう」野生のドルフィンウォッチング。何を語るか。解説。PACI・1Star検定試験
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	積極的に自主的にいろいろな活動に参加し、たくさんの感動をすること。興味を持ったことについて、それぞれの方法で自主的に独自に学ぶ。そこで得た知識は体験活動と同様の「知恵」となる。豊かな人生を送る糧となる。
評価方法	①出席率（60％） ②レポート（20％） ③期末テスト（20％）以上の割合で評価する。

【使用教科書・教材・参考書】

PACIインタープリター養成講座workbook、写真集「Whale&dolphins」、CNAC(海に学ぶ体験活動協議会）「海あそび安全講座」、「海辺の環境教育プログラム事例集」
その他：PACI非常勤講師の予定、フィールドの予定は先方（現地）の都合により変更となることもある。

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	海洋自然観察概論 (Introduction to sustaining Ocean Nature Observation)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	菅原　茂 （他PACIの特別講師）
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3・4時限

【授業の学習内容】

インタープリテーション（自然や野生動物のメッセージを伝える）能力を身に付けることを第一の目的とする。
授業内容は環境教育促進法（略称）に基づき,環境省（文部科学省、国土交通省の3省）に登録している「インタープリター入門講座」をベースにしている。水族館関係者、野生動物のフィールド関係者、研究者などPACIの非常勤講師の特別講義をふんだんに、業界の最新情報の収集やキャリアデザイン能力を磨く等幅広い内容で、インタープリターの基礎知識を学ぶ構成となっている。

※担当教員実務経験：明治大学政治経済学部卒。あわしまマリンパーク・総支配人、淡島水族館・館長、NPO法人PACI国際海洋自然観察員協会・代表理事、TCA東京エコ動物海洋専門学校・副校長、NPO法人CNAC海に学ぶ体験活動協議会・理事。
代表菅原の他、イルカの行動学、クジラの専門家、自然学校・所長、ドルフィンスイム東京都公認ガイド、カナダのシャチ研究家などその道のプロ約10名強のPACI非常勤講師の特別講義により構成されている。

【到達目標】

日帰りで10人程度の少人数の子供や大人を海辺や水族館・博物館などに案内できるインタープリターになることを目標とする。
<具体的な目標>
①PACI1Star　インタープリターのガイドライン8項目について80%以上の達成を目指すこと。
②PACI　教則本「インタープリター養成講座　Work book」（1Star,2Star兼用の1Star部分）について、80%以上理解をしていること。
③海に学ぶ体験活動協議会編「海あそびレシピ」環境教育プログラム33件の内、10件以上のアクティビティを子供に指導できること。

授業計画・内容	
1回目	PACI・後期授業の内容・目標を理解する。インタープリターとは何か。修得スキルと到達目標。
2回目	ワークショップ＆レポート作成
3回目	PACI・非常勤講師による「特別講義」
4回目	ワークショップ＆レポート作成
5回目	PACI・非常勤講師による「特別講義」
6回目	ワークショップ＆レポート作成
7回目	フィールド講習、もじ少年自然の家・西胤所長、ももち浜（安全講習、SDGs実践としてのクリーンアップ作戦、海あそび）
8回目	フィールド講習、もじ少年自然の家・西胤所長、ももち浜（安全講習、SDGs実践としてのクリーンアップ作戦、海あそび）
9回目	フィールド講習、もじ少年自然の家・西胤所長、ももち浜（安全講習、SDGs実践としてのクリーンアップ作戦、海あそび）
10回目	フィールド講習、もじ少年自然の家・西胤所長、ももち浜（安全講習、SDGs実践としてのクリーンアップ作戦、海あそび）
11回目	フィールド講習、レポート作成
12回目	PACI・非常勤講師による「特別講義」
13回目	ワークショップ＆レポート作成
14回目	「インタープリターをやってみよう」水族館編、解説・テスト
15回目	PACI授業のふり返り
準備学習 時間外学習	積極的に自主的にいろいろな活動に参加し、たくさんの感動をすること。興味を持ったことについて、それぞれの方法で自主的に独自に学ぶ。そこで得た知識は体験活動と同様の「知恵」となる。豊かな人生を送る糧となる。
評価方法	①出席率（60%） ②レポート（20%） ③期末テスト（20%）以上の割合で評価する。

【使用教科書・教材・参考書】

PACIインタープリター養成講座workbook、写真集「Whale&dolphins」、CNAC(海に学ぶ体験活動協議会)　「海あそび安全講座」、
「海辺の環境教育プログラム事例集」、
その他：PACI非常勤講師の予定、フィールドの予定は先方（現地）の都合により変更となることもある。

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	海洋哺乳類 Ⅰ (Marine Mammal Science Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岩田　陽子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限

【授業の学習内容】

海洋に生息する哺乳類の分類・行動、生体などの基礎知識を学ぶ。

※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館マリンワールドにて飼育スタッフとして、海獣課ドルフィントレーナー11年・魚類課2年従事。

【到達目標】

分類から、行動・生態に繋げ、人に伝えることが出来る様になる。

授業計画・内容	
1回目	海洋哺乳類とは？
2回目	鯨類　進化・分類
3回目	鯨類の体の仕組み①
4回目	鯨類の体の仕組み②
5回目	鯨類の体の仕組み③
6回目	鯨類の体の仕組み④
7回目	鯨類の体の仕組み⑤
8回目	鯨類の体の仕組み⑥
9回目	鰭脚類　進化・分類
10回目	鰭脚類　体の仕組み①
11回目	鰭脚類　体の仕組み②
12回目	鰭脚類　体の仕組み③
13回目	鰭脚類　体の仕組み④
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	授業毎の単元にリンクするよう、関連図書・ネット掲載情報をまとめる。 各水族館施設で飼育管理をされている生体に関して調べ、管理方法を知る。
評価方法	記述試験　80% 授業姿勢　20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	海洋哺乳類 Ⅰ (Marine Mammal Science Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岩田　陽子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限

【授業の学習内容】

海洋に生息する哺乳類の分類・行動、生体などの基礎知識を学ぶ。

※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館マリンワールドにて飼育スタッフとして、海獣課ドルフィントレーナー11年・魚類課2年従事。

【到達目標】

分類から、行動・生態に繋げ、人に伝えることが出来る様になる。

授業計画・内容	
1回目	環境エンリッチメント
2回目	生物と人の関わり①
3回目	生物と人の関わり②
4回目	捕鯨①
5回目	捕鯨②　DVD鑑賞/考察
6回目	捕鯨③
7回目	ラッコ　進化・分類
8回目	ラッコ　体の仕組み①
9回目	ラッコ　体の仕組み②
10回目	ラッコ　体の仕組み③
11回目	ラッコ　体の仕組み④
12回目	ラッコ　飼育①
13回目	ラッコ　飼育②
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	授業毎の単元にリンクするよう、関連図書・ネット掲載情報をまとめる。 各水族館施設で飼育管理をされている生体に関して調べ、管理方法を知る。
評価方法	記述試験　80% 授業姿勢　20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	ドルフィントレーニング Ⅰ (Dolphin Training Ⅰ)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	藤井　勝
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

オペラント条件づけとレスポンデント条件づけを中心に、学習理論の基礎となる用語の理解を深め、水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングにおける背景（理論）を学ぶ。

※担当教員実務経験：北海道大学卒業後、ワールドドルフィンリゾート及びワールド牧場にて3年間、ハンドウイルカ・オキゴンドウ・ハナゴンドウ・ケープペンギン・マゼランペンギン・フンボルトペンギンの飼育業務・ふれあい担当としてトレーナー勤務。その後、パラオ共和国 Dolphins Pacificにて7年間、ハンドウイルカの飼育業務・ふれあい・ドルフィンスイム・ドルフィンダイブトレーナーとして従事。
現在、ドッグトレーナーとして獣医師、グルーマー、トレーナーに犬のハズバンダリートレーニングの実践指導を行っている。

【到達目標】

オペラント条件づけ、レスポンデント条件づけ、消去、般化と弁別など、学習における基本的な理論を学ぶ。

授業計画・内容	
1回目	オペラント条件づけ（強化）
2回目	正の強化
3回目	負の強化
4回目	オペラント条件づけ（弱化）
5回目	正の弱化
6回目	負の弱化
7回目	レスポンデント条件づけ
8回目	般化と弁別
9回目	脱感作
10回目	シェイピング
11回目	ハズバンダリートレーニング
12回目	現代における強化
13回目	シェイピングゲーム
14回目	評価試験、様々な動物のトレーニング
15回目	前期授業統括
準備学習 時間外学習	授業中に適宜課題を与える。授業内容理解し適宜メモを取ること。
評価方法	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：Animal Training (Ken Ramirez)　行動分析学入門（産業図書）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ドルフィントレーニング Ⅰ （　Dolphin Training Ⅰ　）	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	藤井　勝
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

オペラント条件づけとレスポンデント条件づけを中心に、学習理論の基礎となる用語の理解を深め、水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングにおける背景（理論）を学ぶ。

※担当教員実務経験：北海道大学卒業後、ワールドドルフィンリゾート及びワールド牧場にて3年間、ハンドウイルカ・オキゴンドウ・ハナゴンドウ・ケープペンギン・マゼランペンギン・フンボルトペンギンの飼育業務・ふれあい担当としてトレーナー勤務。その後、パラオ共和国 Dolphins Pacificにて7年間、ハンドウイルカの飼育業務・ふれあい・ドルフィンスイム・ドルフィンダイブトレーナーとして従事。
現在、ドッグトレーナーとして獣医師、グルーマー、トレーナーに犬のハズバンダリートレーニングの実践指導を行っている。

【到達目標】

世界中で行われている科学的、人道的なトレーニングを体系的に学び、現代トレーニングへの理解を深める。

授業計画・内容	
1回目	エラーレスラーニング
2回目	行動のモメンタム
3回目	チョイスアンドコントロール
4回目	エンパワーメント
5回目	CAT（Constructional Aggression Treatment）
6回目	Operant Counter Conditioning
7回目	Classical Counter Conditioning
8回目	対話トレーニング
9回目	阻止の随伴性①（好子出現阻止による弱化）
10回目	阻止の随伴性②（嫌子出現阻止による強化）
11回目	阻止の随伴性③（好子消失阻止による強化）
12回目	阻止の随伴性④（嫌子消失阻止による弱化）
13回目	Stimulus Control
14回目	評価試験、分化強化
15回目	後期授業統括
準備学習 時間外学習	授業中に適宜課題を与える。授業内容理解し適宜メモを取ること。
評価方法	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：Animal Training (Ken Ramirez)　行動分析学入門（産業図書）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ドルフィントレーニング演習 （Dolphin Training exercises）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

イルカ関連施設を訪れ、各施設ならではのプログラム・トレーニング・飼育健康管理等を学び、様々な視点からトレーナー像を考える。

※担当教員実務経験：各施設における現役トレーナーより指導いただく。

【到達目標】

各施設におけるステージ、設備、演出方法の違い、プログラム・ドルフィントレーニングの特徴等を理解し、それぞれの魅力を見出し自身のドルフィントレーナー像を考えることが出来る。

授業計画・内容	
1回目	事前学習①-1/訪問施設を調べる
2回目	事前学習①-2/訪問施設の発表
3回目	施設見学①-1
4回目	施設見学①-2
5回目	施設見学①-3
6回目	施設見学①-4
7回目	施設見学①-5
8回目	振り返り①/訪問施設レポート作成及び班に分かれてテーマ毎の発表
9回目	事前学習②-1/訪問施設を調べる
10回目	事前学習②-2/訪問施設の発表
11回目	施設見学②-1
12回目	施設見学②-2
13回目	施設見学③-3
14回目	施設見学④-4
15回目	振り返り②/訪問施設レポート作成及び班に分かれてテーマ毎の発表
準備学習 時間外学習	事前学習として各施設を調べ特徴・魅力などをまとめておくこと。
評価方法	レポート、発表：100%

【使用教科書・教材・参考書】

水族館・イルカのふれあい施設のHP、パンフレット、SNSなど
各施設が発表している論文など

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ドルフィントレーニング演習 （Dolphin Training exercises）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

イルカ関連施設を訪れ、各施設ならではのプログラム・トレーニング・飼育健康管理等を学び、様々な視点からトレーナー像を考える。

※担当教員実務経験：各施設における現役トレーナーより指導いただく。

【到達目標】

各施設におけるステージ、設備、演出方法の違い、プログラム・ドルフィントレーニングの特徴等を理解し、それぞれの魅力を見出し自身のドルフィントレーナー像を考えることが出来る。

授業計画・内容	
1回目	事前学習③-1/訪問施設を調べる
2回目	事前学習③-2/訪問施設の発表
3回目	施設見学③-1
4回目	施設見学③-2
5回目	施設見学③-3
6回目	施設見学③-4
7回目	施設見学③-5
8回目	振り返り③/訪問施設レポート作成及び班に分かれてテーマ毎の発表
9回目	事前学習④-1/訪問施設を調べる
10回目	事前学習④-2/訪問施設の発表
11回目	施設見学④-1
12回目	施設見学④-2
13回目	施設見学④-3
14回目	施設見学④-4
15回目	振り返り④/訪問施設レポート作成及び班に分かれてテーマ毎の発表
準備学習 時間外学習	事前学習として各施設を調べ特徴・魅力などをまとめておくこと。
評価方法	レポート、発表：100%

【使用教科書・教材・参考書】

水族館・イルカのふれあい施設のHP、パンフレット、SNSなど
各施設が発表している論文など

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	水槽管理 (Aquarium Management)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日5時限

【授業の学習内容】

自然界と飼育下での環境の違いを理解し、アクアリウムにおける濾過・水質・機材等に関する知識を深め、水生生物の飼育方法を学ぶ。

※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

①動物に関わる法律や、水族館の仕事・役割について理解する。
②淡水生物・海洋生物それぞれの飼育方法の違いを理解する。
③アクアリウム用品や機材の扱い方を理解する。
④濾過システムを理解し、水槽の立ち上げや日々のメンテナンスが行えるようにする。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、シラバス説明
2回目	生物に関する法律と観賞魚の歴史について
3回目	水質に関する基礎知識と水の濾過について①
4回目	水質に関する基礎知識と水の濾過について②
5回目	アクアリウムにて扱われる水生生物の種類①
6回目	アクアリウムにて扱われる水生生物の種類②
7回目	アクアリウムにて扱われる水生生物の種類③
8回目	淡水生物と海洋生物の違い
9回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法①
10回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法②
11回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法③
12回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法④
13回目	期末試験範囲の振り返り
14回目	期末試験と振り返り
15回目	期末試験返却、前期まとめ
準備学習 時間外学習	アクアリウム専門誌並び、図鑑、飼育本等。 また自宅やアクア実習室内等において水槽メンテナンスを行うなど、自主的に水槽の日常管理に従事するとなお良し。
評価方法	■筆記試験：80% ■授業・実習態度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト、PC

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水槽管理 （ Aquarium Management ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日5時限

【授業の学習内容】

観賞魚を中心とした飼育方法、及び観賞魚業界の歴史や流通を知り、観賞魚水槽の飼育維持管理を知る。

※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

水槽内で観賞魚を飼育した際に、どのように観賞魚が生活をしているかを知り、ろ過サイクルのメカニズムを理解する。

授業計画・内容	
1回目	魚類の病気とその治療法について
2回目	アクアリウム用品・機材の種類と取り扱い方法①
3回目	アクアリウム用品・機材の種類と取り扱い方法②
4回目	アクアリウム用品・機材の種類と取り扱い方法③
5回目	水槽の立ち上げ・メンテナンス実習（濾過システム別）①
6回目	水槽の立ち上げ・メンテナンス実習（濾過システム別）②
7回目	水槽の立ち上げ・メンテナンス実習（濾過システム別）③
8回目	水槽の立ち上げ・メンテナンス実習（濾過システム別）④
9回目	水槽の立ち上げ・メンテナンス実習（濾過システム別）⑤
10回目	水槽の立ち上げ・メンテナンス実習（濾過システム別）⑥
11回目	大型施設における水槽管理・濾過・配管について
12回目	配管・観賞魚パッキング実習
13回目	期末試験範囲の振り返り
14回目	期末試験、1年間の振り返り
15回目	期末試験返却、解説
準備学習 時間外学習	アクアリウム専門誌並び、図鑑、飼育本等。 また自宅やアクア実習室内等において水槽メンテナンスを行うなど、自主的に水槽の日常管理に従事するとなお良し。
評価方法	■筆記試験：80% ■授業・実習態度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト、PC

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水族館総合演習 （Comprehensive Aquarium Studies）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	株式会社海の中道海洋生態科学館 飼育員 （オムニバス形式）
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1時限

【授業の学習内容】

水族館の社会的役割、水・海水の特性、海水の循環、生物採集に関する関連法律、水族館展示技法、病気の診断と治療などの水族館の基礎知識を座学で学び、ティールド調査では調査、観察、記録方法を学び、得られた結果より考察する力を見につける。

※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館、マリンワールド海の中道の飼育員が授業を担当。

【到達目標】

水族館の社会的使命を理解し、即戦力として現場で求められる知識・技術を学ぶ。
また年間4回のフィールド調査を通じて、調査技法、生物採集方法、採集された生物の種同定、保全活動を実践しながら身に着ける。
フィールド調査は下記の点を重点項目とする。
①海浜部：曳網採集、アマモ移植・保全活動
②環境共生の森：ニッポンパラタナゴ、水生植物、水生昆虫保全活動、水田稲作

授業計画・内容	
1回目	水族館の役割を理解し、説明できる。
2回目	水・海水の特性、循環の仕組み、水温躍層を理解し説明できる。
3回目	1回目　フィールド調査 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンパラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	展示生物の採集・輸送方法を説明できる。
8回目	フィールド演習を振り返り、海水の循環を説明できる。
9回目	2回目　フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンパラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	前期授業のまとめ
14回目	前期評価試験及び振り返り
15回目	調査研究活動の実践例を学び、説明できるようになる。
準備学習 時間外学習	・水族館が担う4つの役割を理解し、各園館の取り組みを調べる。 ・各授業の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度　20% 筆記試験　80%

【使用教科書・教材・参考書】

新・飼育ハンドブック水族館編テキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水族館総合演習 （Comprehensive Aquarium Studies）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	株式会社海の中道海洋生態科学館 飼育員 （オムニバス形式）
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1時限

【授業の学習内容】

水族館の社会的役割、水・海水の特性、海水の循環、生物採集に関する関連法律、水族館展示技法、病気の診断と治療などの水族館の基礎知識を座学で学び、ティールド調査では調査、観察、記録方法を学び、得られた結果より考察する力を身につける。

※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館、マリンワールド海の中道の飼育員が授業を担当。

【到達目標】

水族館の社会的使命を理解し、即戦力として現場で求められる知識・技術を学ぶ。
また年間4回のフィールド調査を通じて、調査技法、生物採集方法、採集された生物の種同定、保全活動を実践しながら身に着ける。
フィールド調査は下記の点を重点項目とする。
①海浜部：曳網採集、アマモ移植・保全活動
②環境共生の森：ニッポンパラタナゴ、水生植物、水生昆虫保全活動、水田稲作

授業計画・内容	
1回目	水族館での繁殖の取り組みについて理解し、説明できる。
2回目	水族館での病気と治療について理解し、説明できる。
3回目	3回目　フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンパラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	水族館での飼育・展示技法について理解し、説明できる。
8回目	水族館での展示・解説方法について理解し、説明できる。
9回目	4回目　フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンパラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	後期授業のまとめ
14回目	後期評価試験および振り返り
15回目	水族館の社会・教育活動について理解し、説明できる。
準備学習 時間外学習	・水族館が担う4つの役割を理解し、各園館の取り組みを調べる。 ・各授業の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度　20% 筆記試験　80%

【使用教科書・教材・参考書】

新・飼育ハンドブック水族館編テキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水族館概論 （Introduction to the Aquarium）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山田　重隆
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日2時限

【授業の学習内容】

日本動物園水族館協会が発行するテキストを基に水族館の4つの役割を理解し、「概論」「分類」「生理」「生態」「輸送」「保存」「繁殖」「餌料」「病気」について、水族館運営に必要不可欠な基礎知識を習得する。

※担当教員実務経験：学芸員。東海大学海洋学部卒業後、水族館マリーンパレス（現うみたまご）で約37年勤務。魚のショー、ジンベエザメの幼魚を飼育（世界初）、タチウオの長期飼育（当時日本最長）など魚類を担当。また、子ども水族館教室、バックヤードツアー、お泊まり水族館など様々なイベントに従事。

【到達目標】

水族館における動物飼育知識や運営面での基本を理解し、主要な項目について説明出来るようになる。
また、水族館の採用試験に対応出来る学力を培う。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、新・飼育ハンドブック水族館編3 「概論」①
2回目	新・飼育ハンドブック水族館編3 「概論」②
3回目	新・飼育ハンドブック水族館編3 「分類」①
4回目	新・飼育ハンドブック水族館編3 「分類」②
5回目	新・飼育ハンドブック水族館編3 「生理」
6回目	新・飼育ハンドブック水族館編3 「生態」
7回目	中間試験及び振り返り
8回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「繁殖」①
9回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「繁殖」②
10回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「餌料」①
11回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「餌料」②
12回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「病気」①
13回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「病気」②
14回目	評価試験及び振り返り
15回目	前期の振り返り及び解説
準備学習 時間外学習	新・飼育ハンドブックの次回授業範囲を熟読し、疑問・不明点などを明確にして授業に臨むこと。
評価方法	中間試験30% 期末試験50% 出席20%

【使用教科書・教材・参考書】

改訂版　新・飼育ハンドブック水族館編1～5

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水族館概論 （Introduction to the Aquarium）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山田　重隆
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日2時限

【授業の学習内容】

日本動物園水族館協会が発行するテキストを基に水族館の4つの役割を理解し、「概論」「分類」「生理」「生態」「輸送」「保存」「繁殖」「餌料」「病気」について、水族館運営に必要不可欠な基礎知識を習得する。

※担当教員実務経験：学芸員。東海大学海洋学部卒業後、水族館マリーンパレス（現うみたまご）で約37年勤務。魚のショー、ジンベエザメの幼魚を飼育（世界初）、タチウオの長期飼育（当時日本最長）など魚類を担当。また、子ども水族館教室、バックヤードツアー、お泊まり水族館など様々なイベントに従事。

【到達目標】

水族館における動物飼育知識や運営面での基本を理解し、主要な項目について説明出来るようになる。
また、水族館の採用試験に対応出来る学力を培う。

授業計画・内容	
1回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「収集」①
2回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「収集」②
3回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「輸送」①
4回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「輸送」②
5回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「保存」①
6回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「保存」②
7回目	中間試験及び振り返り
8回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示・教育」①
9回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示・教育」②
10回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示・教育」③
11回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「広報」
12回目	新・飼育ハンドブック水族館編5 「施設・危機管理」①
13回目	新・飼育ハンドブック水族館編5 「施設・危機管理」②
14回目	評価試験及び振り返り
15回目	前期の振り返り及び解説
準備学習 時間外学習	新・飼育ハンドブックの次回授業範囲を熟読し、疑問・不明点などを明確にして授業に臨むこと。
評価方法	中間試験30% 期末試験50% 出席20%

【使用教科書・教材・参考書】

改訂版　新・飼育ハンドブック水族館編1～5

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	船舶免許対策講座　2級・特殊 (Boat Operator Ⅱ and Personal Water Craft Operator National Examination Course)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	ボート免許センター
		授業形態	演習	総時間(単位)	30	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	火曜日5時限

【授業の学習内容】

広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な、小型船舶に対する知識を学ぶ。
小型船舶操縦士2級・特殊(水上オートバイ)免許取得を目指す。

※担当教員実務経験:株式会社ボート免許センター。(設立2006年3月24日)
事業内容/一級・二級・二級第一号限定・特殊小型船舶教習所(九小教第5号)・小型船舶操縦免許証更新
・失効再交付講習機関(操更講第17号・操失講第17号)損害保険代理業務

【到達目標】

小型船舶操縦士2級・特殊(水上オートバイ)免許取得。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション/取得免許に関して
2回目	学科教本　P13～P42　小型船舶の船長の心得および遵守事項(水上交通の特性、小型船舶の船長の心得)
3回目	学科教本　P43～P59　小型船舶の船長の心得および遵守事項(小型船舶の船長の遵守事項)
4回目	学科教本　P61～P69　交通の方法(海上衝突予防法/基本となる航法)・小テスト①
5回目	学科教本　P70～P84　交通の方法(海上衝突予防法/灯火・形象物・信号、港則法)
6回目	学科教本　P85～P102　交通の方法(海上交通安全法、湖川・特定水域での交通の方法)　運航(操縦の基本)
7回目	学科教本　P103～P116　運航(出入港・係船・錨泊/船体の安定・トリム/狭視界時の航行/曳航)・小テスト②
8回目	学科教本　P117～P132　運航(航海の基礎)
9回目	学科教本　P133～P143　運航(船体・設備・装備品、ロープの取り扱い/発航前の点検)
10回目	学科教本　P144～P164　運航(機関の取り扱い)
11回目	学科教本　P165～P183　運航(気象・海象、荒天時の操縦と避難、事故対策)
12回目	補習・練習問題・小テスト③
13回目	免許試験①
14回目	期末評価及び振り返り(免許試験②)
15回目	免許試験③
準備学習 時間外学習	授業ごとの学科教本の予習・復習を行うこと。 学科試験「過去問題」を使用しての反復学習をすること。
評価方法	定期試験の結果(50%)、小テスト(30%)、授業態度(20%)を加味して評価する。

【使用教科書・教材・参考書】

学科教本

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	船舶免許対策講座　1級 (Boat Operator Ⅰ National Examination Course)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	ボート免許センター
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日5時限

【授業の学習内容】

広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な、小型船舶に対する知識を学ぶ。
小型船舶操縦士1級免許取得を目指す。

※担当教員実務経験：株式会社ボート免許センター。（設立2006年3月24日）
事業内容/一級・二級・二級第一号限定・特殊小型船舶教習所（九小教第5号）・小型船舶操縦免許証更新
・失効再交付講習機関（操更講第17号・操失講第17号）損害保険代理業務

【到達目標】

小型船舶操縦士１級免許取得。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	学科教本　P7～58　上級運航Ⅰ（航海計画/救命設備/通信設備/気象・海象/荒天航法・海難防止）
3回目	学科教本　P59～86　上級運航Ⅱ（機関の保守整備/機関故障時の対処）
4回目	補習・練習問題
5回目	海図①
6回目	海図②
7回目	海図③
8回目	海図④・潮汐表の利用法
9回目	補習・練習問題
10回目	補習・練習問題
11回目	免許試験①
12回目	免許試験②
13回目	期末評価及び振り返り（免許試験③）
14回目	免許試験④
15回目	免許試験⑤
準備学習 時間外学習	授業ごとの学科教本の予習・復習を行うこと。 学科試験「過去問題」を使用しての反復学習をすること。
評価方法	定期試験の結果（70%）、授業態度（30%）を加味して評価する。

【使用教科書・教材・参考書】

学科教本

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	ダイビング演習 （Scuba　Diving）	必修選択	必須選択	年次	1	担当教員	高濱　香
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日2時限

【授業の学習内容】

潜水計画から海況判断、トラブル回避など、ダイビングを安全に楽しむために必要な知識を学科講習で身につけ、海でスキルを身につける。

※担当教員実務経験：PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表。
オープンウォーターダイバー20年、潜水士20年、ライフセービング11年。

【到達目標】

PADIオープン・ウォーター・ダイバーCカード取得

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／アンケート及び、参加前書類作成
2回目	オープン・ウォーター　テキスト第1章
3回目	オープン・ウォーター　テキスト第2・第3章
4回目	オープン・ウォーター　テキスト第4・第5章
5回目	オープン・ウォーター　模擬テスト
6回目	オープン・ウォーター　ライセンス学科試験
7回目	オープン・ウォーター　器材紹介・セッティング紹介
8回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習①ライセンス取得講習（終日）
9回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習②ライセンス取得講習（終日）
10回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習③ライセンス取得講習（終日）
11回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習④ライセンス取得講習（終日）
12回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習⑤ライセンス取得講習（終日）
13回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習⑥ライセンス取得講習（終日）
14回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習⑦ライセンス取得講習（終日）
15回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習⑧ライセンス取得講習（終日）
準備学習 時間外学習	水泳200mが泳げる体力をつけておくこと。
評価方法	■学校評価基準 筆記試験　70%、スキル評価　30% ■ライセンス取得基準 筆記試験　　75%以上（ライセンス学科 取得基準）、スキル評価　100%（ライセンス実技 取得基準）

【使用教科書・教材・参考書】

PADIオープンウォーターテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	潜水士対策講座 （Preparation class for Diving Examination）	必修 選択	必須選択	年次	1	担当教員	高濱　香
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日2時限

【授業の学習内容】

潜水士試験に合格する為に、潜水士の教科書を理解して過去問を解き試験問題に慣れる。

※担当教員実務経験：PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表。
オープンウォーターダイバー20年、潜水士20年、ライフセービング11年。

【到達目標】

国家試験「潜水士」取得

授業計画・内容	
1回目	潜水士概要・全体の説明
2回目	潜水業務
3回目	潜水業務　過去問題①
4回目	潜水業務　過去問題②
5回目	送気、潜降及び浮上
6回目	送気、潜降及び浮上　過去問題
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	高気圧障害
9回目	高気圧障害　過去問題①
10回目	高気圧障害　過去問題②
11回目	関係法令
12回目	関係法令　過去問題①
13回目	関係法令　過去問題②
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	潜水士　過去問題
準備学習 時間外学習	使われている用語や仕組みが難しいので、復習が必要。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、授業態度と参加度（20%）を加味して評価する。

【使用教科書・教材・参考書】

潜水士テキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	進級課題 (Level Advancement Study)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	村上　弘志
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う

【到達目標】

学習成果（知識・技術）をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。

授業計画・内容	
1回目	進級課題とは①　～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方　～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定　～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習①　～自分（班）のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習②　～途中経過の報告～
7回目	実践学習③　～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備①　～パワーポイント作成～
9回目	発表準備②　～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③　～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④　～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤　～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り　～各自（班内）で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自（各班）で意見交換を随時行う。また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	業界研修	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
	（ Business Internship ）	授業形態	演習	総時間（単位）	90	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業		（6）	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。
・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。
・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。
・自らの「キャリア」をデザインできる。

授業計画・内容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表（20%） これらを総合的に判断して評価

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	特別講義＆見学	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
	（ Special Lecture ）	授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・動物業界で必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
・動物業界で必要な人間力を理解し、身に付ける。
・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授業計画・内容	
1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	グローバルコミュニケーション （Global Communivcation）	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120 (8)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 1時限、金曜日 1時限

【授業の学習内容】

好きな事について話すことができる。商品のレビューを読み、書くことができる。
平日、週末のアクティビティについて話すことができる。日常のアクティビティについてのレポートを読む、また書くことができる。
道順について尋ねる、また教えることができる。場所についての特徴について読み、書くことができる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

授業計画・内容			
1回目	個人的な情報をたずねる・説明する表現を学ぶ。Be 動詞を学ぶ、復習する。疑問代名詞[What]の使い方を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く。大文字、ピリオドの使い方を学ぶ。	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	「はい」「いいえ」で答える質問における [Is / Are]の使い方を学ぶ。家族について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	年齢、誕生日に関する表現を学ぶ言い直すに関する言葉を学ぶ。	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」	オンデマンド	
6回目	[it is]の使い方を学ぶ。家具について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	ホームシェアについてのメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	「現在形」陳述文を学ぶ (I, you, we)。好きな事について話す。	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	連絡を取り合う方法について話す。相手の話を聞いていることを示す。	オンデマンド	対面授業と連動
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」	オンデマンド	
11回目	「現在形」疑問文（yes/no / WH-question)を学ぶ。時間・ルーティンについて話す。	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	日常のアクティビティについてのレポートを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	[There (is, are), (a lot, some no)]の使い方を学ぶ。町にある場所について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	道順について尋ねる、また教える際に使う表現を学ぶ情報を確認する。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE1

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	グローバルコミュニケーション （Global Communivcation）	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120 (8)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 1時限、金曜日 1時限

【授業の学習内容】

週末に向けたアウトドア活動の計画を立てることができる。オンラインでの招待状を読み、書くことができる。
過去についての場所や出来事、過去の人について述べることができる。思い出の品についての記事やメールを読む、また書くことができる。
食べた食事について話すことができる。レストランのレビューを読む、また書くことができる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

授業計画・内容			
1回目	「現在進行形」疑問文を学ぶ旅行について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	最近の出来事についてのブログ記事を読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	[Can / Can't]（能力）を使う陳述文・疑問文を学ぶ。自身のスキルや能力について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	自分の意見を述べる。自分はある仕事の適任者であることを説明する。	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて話す」	オンデマンド	
6回目	[like to, want to, need to, have to]の使い方を学ぶ。使い分けがわかる旅行計画を立てる。	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	旅行ガイドを読む、また場所の説明を書く。	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[be going to]（陳述文）の使い方を学ぶ。週末に向けたアウトドア活動の計画について話す。	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	あることをやってはいけない理由を説明する。	オンデマンド	
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画し、発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	「過去形」（was / were)の疑問文を学ぶ。色、記憶について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	思い出の品についての記事やメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	「過去形」の陳述文を練習する。スナック、軽食について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	[so / really]（強調する）の使い方を学ぶ。食べ物・飲み物を注文する。	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE1

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	海外実学研修 （Overseas Practical Training）	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	現地各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 （ 4 ）	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	未定

【授業の学習内容】

国際教育の一環として、実際に海外での施設見学、特別講義、自由行動を通し国際性を身に付け、グローバル化する現代社会で活躍できる人材育成を目的とする。

※担当教員実務経験：海外における現地実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・最先端の動物、環境に関わる知識や技術を理解し身に付ける。
・これからの業界に必要な考え方を理解し身に付ける。
・世界における日本の立場を理解する。
・自身のキャリアをデザインする。

授業計画・内容	
1回目	訪問国、訪問施設を調べまとめる、班ごとに発表する
2回目	訪問国での施設見学、特別講義
3回目	訪問国での施設見学、特別講義
4回目	訪問国での施設見学、特別講義
5回目	訪問国での施設見学、特別講義
6回目	訪問国での施設見学、特別講義
7回目	訪問国での施設見学、特別講義
8回目	訪問国での施設見学、特別講義
9回目	訪問国での施設見学、特別講義
10回目	訪問国での施設見学、特別講義
11回目	訪問国での施設見学、特別講義
12回目	訪問国での施設見学、特別講義
13回目	訪問国での施設見学、特別講義
14回目	研修ノートのまとめ、レポート作成
15回目	海外実学研修の振り返り、発表、まとめ
準備学習 時間外学習	・【事前学習】訪問国、訪問施設を調べまとめる ・【事後学習】訪問施設を研修ノート及びレポートにまとめる
評価方法	・研修ノート、レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去の海外実学研修ノート

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	イベント運営 （Event Management）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各イベント実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 （1）	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。
企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。

※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・企画立案、運営ができるようになる。
・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。
・接客を知り、実践できるようになる。
・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。
・予算管理を実践し習得する。
・スケジューリングを理解し、実践できる。

授業計画・内容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備（50%） ・レポート(50%)

【使用教科書・教材・参考書】

過去のイベント資料

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	特別課外活動 （Club Activities）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各クラブ顧問
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 （1）	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学友会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う

※担当教員実務経験：該当なし

【到達目標】

・チームワークを身に付ける。
・計画性を身に付ける。
・予算管理を身に付ける。
・マネジメントを理解し身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ボランティア活動 （Volunteer Work）	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。

※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。
・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去のボランティア活動報告書

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	資格取得講座 （Seminar for a Qualification）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	村上　弘志
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。

【到達目標】

・各検定試験、資格試験の合格

授業計画・内容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去の各検定、資格教本

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアプランニングⅡ （ Career Planning Ⅱ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢作　友規
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日4時限

【授業の学習内容】

将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。

【到達目標】

■業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。
■自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。

授業計画・内容	
1回目	キャリアデザイン / オリエンテーション、自己分析
2回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ①
3回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ②　社会人基礎力/社会人になる前の基礎知識①
4回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ③　社会人基礎力/社会人になる前の基礎知識②
5回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ④　社会人基礎力/社会人になる前の基礎知識③
6回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ⑤　チームマネジメント/学園祭について①
7回目	キャリアデザイン / 合同企業説明会に向けて　チームマネジメント/学園祭について②
8回目	キャリアデザイン / 合同企業説明会振り返り　チームマネジメント/学園祭について③
9回目	業界研究 / 研修後振り返り
10回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて①　インターンシップ・就職活動における姿勢①
11回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて②　インターンシップ・就職活動における姿勢②
12回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて③　インターンシップ・就職活動における姿勢③
13回目	キャリアデザイン / 夏季休暇振り返り　活動報告(インターンシップ・就職活動情報共有)　スポーツフェスタについて①
14回目	チームマネジメント / スポーツフェスタイベント内容の話し合い（ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う）　スポーツフェスタについて②
15回目	キャリアデザイン /前期振り返り　就職活動状況の確認・活動方針の調整　スポーツフェスタについて③
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨むこと。
評価方法	1. 授業態度　（30%） 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの　（50%） 3. 出席　（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・新社会人の基礎力109（滋慶出版）
・オリジナルPowerPoint

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅡ (Carrier planning-Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢作　友規
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日4時限

【授業の学習内容】

将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。

【到達目標】

■業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。
■自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。

授業計画・内容	
1回目	キャリアデザイン / 就職活動の現状確認と今後の予定
2回目	キャリアデザイン / 就職活動対策①
3回目	キャリアデザイン / 就職活動対策②
4回目	キャリアデザイン / 就職活動対策③
5回目	キャリアデザイン / 就職活動対策④
6回目	チームマネジメント / 卒業課題制作①、We are ECO①
7回目	チームマネジメント / 卒業課題制作②、We are ECO②
8回目	チームマネジメント / 卒業課題制作③、We are ECO③
9回目	チームマネジメント / 卒業課題制作④、We are ECO④
10回目	チームマネジメント / 卒業課題制作⑤、We are ECO⑤
11回目	チームマネジメント / 卒業課題発表：評価・振り返り①、We are ECO⑥
12回目	チームマネジメント / 卒業課題発表：評価・振り返り②、We are ECO⑦
13回目	セルフマネジメント / 2023年振り返り
14回目	セルフマネジメント / 2年間振り返り①
15回目	2年間振り返り②
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨むこと。
評価方法	1. 授業態度 （30%） 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの　（50%） 3. 出席 （20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・新社会人の基礎力109（滋慶出版）
・オリジナルPowerPoint

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	プレゼンテーションⅡ （　Presentation Ⅱ　）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田代　マキ
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

業界に必要な態度、表情、伝え方、学習力、面接力を身に付ける。

※担当教員実務経験：キャリアカウンセラー（技能士2級）、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリヤ教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。

【到達目標】

姿勢、立ち居振る舞いの美しさ、明るい表情、好感音、面接力を身に付ける。
わかりやすい伝え方、文章作成ができる。
学習力、復習力を鍛え仕事遂行能力を身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	一年次の振り返り　目標設定
2回目	好感音トレーニング　言葉遣い復習
3回目	他己紹介準備　ワンセンテンスワンパーソン他己紹介の意義
4回目	他己紹介　三点評価　モデリングを身に付ける。
5回目	他己紹介　三点評価
6回目	面接練習　立ち居振る舞い
7回目	面接練習　自分の強み　経験を振り返り
8回目	面接練習　一対一
9回目	面接練習三対三
10回目	集団面接
11回目	小論文の書き方　小論文の課題「面接練習自己分析　」
12回目	小論文課題発表　授業内提出
13回目	仕事遂行能力ワーク
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり　日常からニュースや本を読む習慣を身に付け、面接力、小論文の対応力の準備をすること。
評価方法	参加態度50% 傾聴力30% 筆記試験20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	プレゼンテーションⅡ （　Presentation Ⅱ　）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田代　マキ
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

業界に必要な態度、表情、伝え方、学習力、面接力を身に付ける。

※担当教員実務経験：キャリアカウンセラー（技能士2級）、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリヤ教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。

【到達目標】

姿勢、立ち居振る舞いの美しさ、明るい表情、好感音、面接力を身に付ける。
わかりやすい伝え方、文章作成ができる。
学習力、復習力を鍛え仕事遂行能力を身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	後期目標プレゼンテーション
2回目	性格の作られ方
3回目	効果的な質問の仕方
4回目	グループワーク課題解決力
5回目	言語コミュニケーションワーク
6回目	非言語的コミュニケーションワーク
7回目	中間評価
8回目	一般常識仕事遂行ワーク
9回目	リフレーミングとポジティブシンキング
10回目	PDCAサイクル日常編
11回目	PDCAサイクルプレゼンテーション授業編
12回目	仕事遂行力ワーク　総集編
13回目	二年間プレゼンテーション振り返り発表
14回目	後期評価テスト
15回目	後期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり　日常からニュースや本を読む習慣を身に付け、面接力、小論文の対応力の準備をすること。
評価方法	参加態度50% 傾聴力30% 筆記試験20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	社会人基礎力 （Essential Competencies for the Working Adult）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	榎本　篤子
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー　専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日　5時限

【授業の学習内容】

経済産業省提唱の社会人基礎力の12の能力要素に沿って、ワークを通して自己肯定感、他者肯定感を高め、問題解決能力を磨く。

※担当教員実務経験：国家資格1級キャリアコンサルティング技能士、キャリアカウンセラー。教育機関や国の若者就職支援センターでのキャリア教育、相談に従事。
企業研修や組織でのカウンセリングも行う。コミュニケーションの重要性を重視し、人の成長をサポートする人材教育に幅広く携わっている。

【到達目標】

主体性を発揮できるようになる。
考える力を身につける。
チームで働く意識を強める。
計画、実行、忍耐力を身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	社会人基礎力の説明
2回目	規律性とビジネスマナー　＊ルールとマナー
3回目	課題発見力　①　個人ワークとグループワーク　気付きの習慣を磨く
4回目	課題発見力　②　個人ワークとグループワーク
5回目	状況把握力　①提案力改善案スピーチ
6回目	状況把握力　②提案力改善案スピーチ
7回目	中間評価
8回目	計画力　優先順位の付け方　PDCAサイクルについて
9回目	身近なPDCAサイクル発表　他者の行動を参考　モデリングする。
10回目	スモールステップからの現実可能なキャリアデザインを描く
11回目	実行力　マンパワーワーク
12回目	柔軟性　9人のポジション
13回目	働きかけ力　社会人としての役割を知る。
14回目	評価テスト
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	参加態度50% 傾聴力30% 筆記試験20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト
社会人基礎力講座（日経BP社）7つの習慣（宝島社）PDCAノート（フォレスト出版）他

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	グローバルコミュニケーション （Global Communivcation）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間 （単位）	120 (8)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー　専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限、水曜日4時限、木曜日1-3時限、金曜日1・3時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、
また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

知人・家族について話すことができる。職場でのフォーマルなメールを読む、また書くことができる。毎日していることについて話すことができる。
ポッドキャストについての意見を読む、また書くことができる。今していることについて話すことができる。サービス業界の会社へのメッセージを読む、
また書くことができる。招待する、またそれに応えることができる。イベントへの招待を読む、また書くことができる。人生の中での過去のイベントに
ついて話すことができる。新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書くことができる。
店内で欲しいものについて述べることができる。新しい商品の説明を読む、またVlog（ビデオブログ）のためのスクリプトを書くことができる。

授業計画・内容			
1回目	所有代名詞(whose)を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	自己紹介をする。職場でのフォーマルなメールを読む、書く	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	習慣・ルーティンについて質問する。[Wh-question]を練習する	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	繰り返しを求める表現を学ぶ。意思疎通に問題があったことを説明する	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
6回目	「現在進行形」「単純現在形」を練習する。スポーツ、運動について話す	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	サービス業界の会社へのメッセージを読む、書く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	将来のことを説明する際に使う「現在進行形」を学ぶ。将来のプランについて話す	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	招待する、招待に応える表現を学ぶ。招待を断る理由を説明する	オンデマンド	対面授業と連動
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「プレゼントを選ぶについて」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	「過去形」（陳述文の否定形；疑問文）を復習する	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書く	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	[be going to]を復習する買い物に行くことについて会話する	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	店内で欲しいものについて述べる。物事の言い方を英語で聞く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE2

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	グローバルコミュニケーション （Global Communivcation）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120 (8)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー　専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限、水曜日4時限、木曜日1-3時限、金曜日1・3時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、
また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

レストランで頼みたいものについて説明することができる。ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書くことができる。
提案をする、また提案をうけることができる。海外生活についてのアドバイスを読む、また書くことができる。意見を尋ねる、また述べることができる。
広告を読む、また写真の説明を書くことができる。将来の予想を立てることができる。アドバイスについてのメールを読む、また書くことができる。
したことがあること、ないことについて話すことができる。インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書くことができる。
天気について話すことができる。場所についての説明を読むことができる。方法についての説明リストを書くことができる。

授業計画・内容			
1回目	キッチンカーをデザインする「動詞型」を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書く	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	[if / when]の使い方を学ぶ。自分の町で何をするかについて話す	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	「問い返し疑問文」を学ぶ。提案をする、また提案をうける表現を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「短期旅行のプランを立てる」	オンデマンド	対面授業と連動
6回目	「形容詞の最高級」を学ぶ。写真に写った人について話す	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	広告を読む、また写真の説明を書く	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[have to]の使い方を学ぶ。職場での危険を回避することについて話す	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	[It feels like (it's like)]を使い、健康問題について話す；健康問題についてアドレスをもらう	オンデマンド	対面授業と連動
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「リアリティ番組を計画し、発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	ソーシャルメディア（ネット）生まれの動詞を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書く	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	[be like]を使い、天気について話す	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	道を聞く、道順を教える際に使う表現を学ぶ。言い改める際に使う表現を学ぶ、復習する	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE2

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	演出効果基礎 (General Statements on production effects)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	甲斐　和幸
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日 1時限

【授業の学習内容】

ショー運営においての映像音響機器の用途目的と使用方法について学ぶ。

※担当教員実務経験：水族館マリンワールドリニューアルより映像音響システムの構築管理、水族館うみたまごのオープン時映像音響コンサルティングなどに従事。

【到達目標】

現場での映像音響機器の運用と、より効率的なショーの提案ができる。(前期音響)

授業計画・内容	
1回目	水族館の建物の構造特性と音響、照明、映像
2回目	イルカショーにおける音響、照明、映像の役割
3回目	音響について　PAとは?
4回目	マイクの種類と特性、周波数について
5回目	ミキサーとはどういう役割か
6回目	アンプの種類と役割
7回目	スピーカーの特性と機能
8回目	使ってみよう、マイク、アンプ、ミキサーをつないで音が出るように
9回目	マリンワールドイルカショーに見る事例検証、どういう機材を使っているか?
10回目	校外演習(マリンワールド海の中道)
11回目	校外演習(マリンワールド海の中道)
12回目	校外演習(マリンワールド海の中道)
13回目	見学後解説
14回目	音楽と著作権について
15回目	前期まとめ(音響全般)課題実施
準備学習 時間外学習	日常において、音響がどういう効果を持っているかを意識して行動すること。
評価方法	授業態度:50% 知識習得度:50%

【使用教科書・教材・参考書】

事例写真、現場見学等

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	演出効果基礎 (General Statements on production effects)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	甲斐　和幸
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日 1時限

【授業の学習内容】

照明設備、映像設備の種類と特性について学ぶ。

※担当教員実務経験：水族館マリンワールドリニューアルより映像音響システムの構築管理、水族館うみたまごのオープン時映像音響コンサルティングなどに従事。

【到達目標】

現場での問題点が把握でき、より効率的なショーの提案ができる。(後期映像、照明)

授業計画・内容	
1回目	映像の役割と環境ごとの機器選択について
2回目	映像効果と照明、照明の種別
3回目	その他ショーで効果的な機器類とは
4回目	イルカアザラシショーにおけるカメラ映像の役割と機種構成
5回目	サイネージとは
6回目	大型映像の特性と効果
7回目	プロジェクションマッピングの事例としくみ
8回目	マッピングをやってみよう
9回目	マッピングをやってみよう
10回目	マッピングをやってみよう
11回目	映像配信の種類と効果
12回目	映像制作のやり方
13回目	テーマ策定し映像作品を作ってみよう
14回目	優秀作品の考察と意見交換(どこがどう良かったか)
15回目	後期まとめ(照明、映像全般)課題実施
準備学習 時間外学習	あらゆる施設での照明、映像の使われ方に気を付けながら行動すること。
評価方法	授業態度:50% 知識習得度:50%

【使用教科書・教材・参考書】

事例写真等、実技演習

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	SDGs （Sustainable Development Goals）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	一般社団法人日本SDGs協会　三浦徹志
		授業形態	講議	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 2時限

【授業の学習内容】

SDGs(エスディジーズ)は国連で約束した国際協力計画である。 SDGsは「持続可能な開発目標（じぞくかのうな　かいはつもくひょう）」と訳す。『開発』とは、『世界中で一人も取り残されず、暮らしや文化を豊かにし、しぜんと生き物が調和して生きていける状態にしていく』という意味。1945年、第二次世界大戦がやっと終わって、国際連合と国連憲章がつくられ、「平和実現のために生活水準、経済、社会の進歩を促進しよう」と定めた。これを実行するため、人権宣言や気候枠組み、動物保護・ワシントン条約などアクションプラン（行動計画）を立て、国境を越えて人々の福祉に努力してきた。SDGsはその最新版である。「今、私たちが地球上でやるべきこと17個の目標」をリストアップ。豊かな海洋と森林を保全し、多様な生き物たちを守るには。第一歩として、プラスチック、資源エネルギー、農業・食料、教育や所得格差、貧困や紛争、ジェンダー、働きがい、グローバリズムなどの課題を見直しましょう。

※担当教員実務経験：日本SDGs協会理事。元大阪経済大学経営学部教授。大学や日本SDGs協会で若者や企業のSDGs活動の支援に従事。

【到達目標】

1年間で4つのテーマ、前期「①環境」・「②社会」／後期「③経済」・「④総合」を学ぶ。
（1）環境・社会中心に世界の諸地域、アフリカ、アジア、南米ほかをビジュアル資料で見たり輪読し、「世界の姿」をイメージできるようになる。
（2）地球の要素、土や水、大気、川や湿地に注目し、その成分と多くの生物の分布を知り、熱帯多雨林、森林など現状を文献・ネットで調べ、基礎知識を得る。
（3）動植物保護の国際条約、ラムサール条約、バーゼル条約などをチェックし、世界のルールをしっかり認識する。
（4）人間の生活と環境条件について考え、大切にするべき資源、保護すべき生き物、自然について知識を身につける（アウトドアや野遊び活動）。
（5）SDGsを正しく理解する。政府の内閣府や経産省、環境省、厚労省、農水省などがSDGsに取り組み、エネルギー、食料、福祉、ジェンダー、若者支援の政策を実行し、持続可能な社会を目指す姿勢をチェックする。人は町や村の共同体社会の中で、制度、法律（ルール）の下、分業して働き、暮しが成り立つことを実感する。

授業計画・内容	
1回目	導入、授業の進め方を説明。SDGsが生れた流れとバックグラウンド。世界の地域、国々、歴史。国同士の関係と国連憲章。
2回目	*テーマ1：環境（2～7回）*　SDGsは3つの面、「環境」「社会」「経済」、三段のウエディングケーキモデル。自然環境は農業・水産業や都市の土台。
3回目	*テーマ1：環境に成り立つ社会*。平等、自由、権利と義務、公共の福祉。創意工夫の経済・自由取引。 校外演習の準備、記録の仕方の注意点　ゴール15.1-5,13.1
4回目	*テーマ1：〔校外演習〕 環境に成り立つ社会*　博多湾の役割、自然環境・海の色。観察、記録。都市と交通。自然と街。　12.2-5,14.1-2,14.7
5回目	*テーマ1：環境に成り立つ社会*　博多湾調査のレポート作成開始。記録・データの整理。ネット情報収集　Webサイトから調べる。レポートの書き方、章と節、項目
6回目	*テーマ1：環境*　博多湾調査　事実の記録、気づき、発見、考察。自然環境と社会・都市インフラ、産業経済・エネルギー基盤　9.1,8.5,7.2,11.3,11.a
7回目	〈中間テスト〉 レポート完成、発表
8回目	*テーマ1：環境に成り立つ社会のまとめ　相互質問と討議、　レポート提出*　テーマ2の説明
9回目	*テーマ2：社会*　〈ゴールの学習〉 世界の諸地域　ゴール3.すべての人に健康と福祉、6.安全な水とトイレ　学習のまとめ・メモ作り
10回目	*テーマ2：社会*　〈ゴールの学習〉 世界の諸地域　ゴール10.不平等の是正（所得引き上げ、移民政策）、11.安全なまち、12.作る責任　学習まとめ・メモ作り
11回目	*テーマ2：社会*　〈ゴールの学習〉 世界の諸地域　ゴール1.貧困をなくそう、2.飢餓ゼロ・食料安全保障・農業促進　学習のまとめ・メモ作り
12回目	*テーマ2：社会*　〈ゴールの学習〉 世界の諸地域　ゴール1.貧困をなくそう、2.飢餓ゼロ・食料安全保障・農業促進　学習のまとめ・**レポートテーマを考**
13回目	*テーマ2：社会*　〈ゴールの学習〉 ゴール1.貧困をなくそう、2.飢餓ゼロ・食料安全保障・農業促進　**学習のまとめ、メモ・資料整理　期末レポートの準備**
14回目	〈期末テスト〉　9回～13回に得た知識、メモをもとに、レポートを作成する。（一番関心のあるゴールを1つ選び、分かったこと、気づくこと、意見、疑問を書く）
15回目	レポート提出　前期に学習した内容のまとめ。質疑。大事な知識、考え方を振り返り、ポイントを整理する。
準備学習 時間外学習	毎授業で出される課題の予習復習を行うこと。
評価方法	筆記試験（レポート）60% 実技試験（授業中の調べ学習、テキストの要点把握と発表の工夫、努力）30% 授業態度（積極性、聴く態度、他の受講生への協力など）10%

【使用教科書・教材・参考書】

「地球環境問題がよくわかる本」浦野紘平ほかオーム社、「60分でわかる！SDGs超入門」バウンド著　功能聡子・佐藤寛監修　技術評論社

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	SDGs （Sustainable Development Goals）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	一般社団法人日本SDGs協会　三浦徹志
		授業形態	講議	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 2時限

【授業の学習内容】

後期は、SDGsの17の目標を経済面などの観点から学ぶ。また、SDGsの元である「生まれながらの人権、自然権、平等思想」と幸福を追求する権利、「働き方」、「経済の成長」を考える。SDGsの基礎である2015年国連決議、「2030アジェンダ・宣言」を読み、世界が共通の目標を必要とする理由を理解しましょう。地域再生や町おこしの事例、産業・企業のSDGs活動の事例をみながら、具体的にゴールの学習を進める。民間企業が主役となって公共的な社会課題をビジネスに取り入れ、男女の別や障害の有無に関係なく誰もが希望を持ち、活躍できる社会作りを検討する。農林業促進、デジタル利用などの改革（イノベーション）を行い、価値のある商品・サービスを生み出すことで経済のパイ（規模）を大きくする。誰もが豊かさを受け取れるようにするためである。経済のゴール（1, 2, 8, 9, 17）と教育、人権、平和と公正な制度のゴール（4, 5, 16）」を確認する。経済・経営の仕組みにも触れ、SDGs経営を考えましょう。

※担当教員実務経験：日本SDGs協会理事。元大阪経済大学経営学部教授。大学や日本SDGs協会で若者や企業のSDGs活動の支援に従事。

【到達目標】

学んだSDGsの知識、理解をノートにまとめ、整理し、自身のSDGs計画として発表できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	*テーマ3:経済*　後期の説明　2030アジェンダを読む　ｺﾞｰﾙ8　経済成長と働きがい。 事例：福島県M製作所　地元材料でチョコレート製造開始
2回目	*テーマ3:経済*　〈ゴールの学習〉 ｺﾞｰﾙ9　産業育成・技術イノベーション　事例：石川県K工業株式会社　中古エンジンの再生・南米輸出
3回目	*テーマ3:経済*　〈ゴールの学習〉 ｺﾞｰﾙ9　産業育成・技術イノベーション　事例：東京都F協同組合　海外技能労働者の招致
4回目	*テーマ3:経済*　〈ゴールの学習〉　ｺﾞｰﾙ　17.パートナーシップ　事例：沖縄県K協同組合　離島の産業振興　三重県I 町野外活動
5回目	*テーマ3:経済*　〈ゴールの学習〉　ｺﾞｰﾙ　17.パートナーシップ　事例：徳島県A株式会社　空き家のサテライトオフィス誘致
6回目	*テーマ3:経済*　〈ゴールの学習〉　ｺﾞｰﾙ　4.　質の高い教育確保・生涯学習　事例：大阪府Y福祉法人　アート教育による社会参加
7回目	〈中間テスト〉　6回目までに学んだ知識をもとに　**筆記テスト**
8回目	*テーマ4:総合*　最終レポート課題「自身のSDGs経営提案」準備の説明
9回目	*テーマ4:総合*　〈ゴールの学習〉 5.ジェンダー平等の達成・女性と女児の能力強化、16.持続可能な開発のための平和促進、法制度
10回目	*テーマ4:総合*　SDGsと経済・経営の関係　自由経済、競争と市場の仕組み。企業の利益、業績。CSR（社会的責任）とCSV（経済と社会の共通価値創造）
11回目	*テーマ4:総合*　SDGsと経営　ESG投資。環境省、COP（ｺｯﾌﾟ）21・IPCC（気候変動枠組み）、UNDP（国連開発機構）、CDP（英国の評価団体）ほか
12回目	*テーマ4:総合*　レポート作成開始　各自ワーク、PCで情報整理、まとめ。プレゼンテーションの練習、ほかの人とコミュニケーションする。
13回目	*テーマ4:総合*　レポート作成　各自ワーク、PCで情報整理、まとめ。プレゼンテーションの練習、ほかの人とコミュニケーションする。
14回目	期末テスト　レポート完成、発表、質疑、意見交換　**レポート提出**
15回目	後期まとめ　学習した内容の重点知識、考え方を振り返り、ポイントを整理、理解を深める。
準備学習 時間外学習	毎授業で出される課題の予習復習を行うこと。
評価方法	筆記試験（レポート）60% 実技試験（授業中の調べ学習、テキストの要点把握と発表の工夫、努力）30% 授業態度（積極性、聴く態度、他の受講生への協力など）10%

【使用教科書・教材・参考書】

「60分でわかる！SDGs超入門」バウンド著　功能聡子・佐藤寛監修　技術評論社刊

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	海洋哺乳類 Ⅱ (Marine Mammal Science Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	岩田　陽子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日2時限

【授業の学習内容】

鯨類・鰭脚類を中心に海洋哺乳類の分類、行動、生態などについての知識理解を深める。

※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館マリンワールドにて飼育スタッフとして、海獣課ドルフィントレーナー11年・魚類課2年従事。

【到達目標】

分類から、行動・生態に繋げ、人に伝えることが出来る様になる。

授業計画・内容	
1回目	ペンギン　進化・分類
2回目	鳥類
3回目	ペンギン　体の仕組み①
4回目	ペンギン　体の仕組み②
5回目	ペンギン　体の仕組み③
6回目	ペンギン　体の仕組み④
7回目	ペンギン　飼育
8回目	海牛目　進化・分類
9回目	海牛目　体の仕組み①
10回目	海牛目　体の仕組み②
11回目	海牛目　体の仕組み③
12回目	海牛目　体の仕組み④
13回目	海牛目　飼育
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	授業毎の単元にリンクするよう、関連図書・ネット掲載情報をまとめること。 各水族館施設で飼育管理をされている生体に関して調べ、管理方法を知る。
評価方法	記述試験　80% 授業姿勢　20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	海洋哺乳類 Ⅱ (Marine Mammal Science Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	岩田　陽子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日2時限

【授業の学習内容】

鯨類・鰭脚類を中心に海洋哺乳類の分類、行動、生態などについての知識理解を深める。

※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館マリンワールドにて飼育スタッフとして、海獣課ドルフィントレーナー11年・魚類課2年従事。

【到達目標】

分類から、行動・生態に繋げ、人に伝えることが出来る様になる。

授業計画・内容	
1回目	カワウソ　進化・分類
2回目	カワウソの体の仕組み①
3回目	カワウソの体の仕組み②
4回目	カワウソの体の仕組み③
5回目	カワウソの体の仕組み④
6回目	ホッキョクグマ　進化・分類
7回目	ホッキョクグマの体の仕組み①
8回目	ホッキョクグマの体の仕組み②
9回目	ホッキョクグマの体の仕組み③
10回目	代表的なヒゲ鯨①
11回目	代表的なヒゲ鯨②
12回目	代表的なヒゲ鯨③
13回目	代表的なヒゲ鯨④
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	授業毎の単元にリンクするよう、関連図書・ネット掲載情報をまとめること。 各水族館施設で飼育管理をされている生体に関して調べ、管理方法を知る。
評価方法	記述試験　80% 授業姿勢　20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ドルフィントレーニングⅡ （　Dolphin Training Ⅱ　）	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	藤井 勝
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限

【授業の学習内容】

1年次に学んだ内容をベースに更に一歩進んだ専門知識や実践力を身につける。

※担当教員実務経験：北海道大学卒業後、ワールドドルフィンリゾート及びワールド牧場にて3年間、ハンドウイルカ・オキゴンドウ・ハナゴンドウ・ケープペンギン・マゼランペンギン・フンボルトペンギンの飼育業務・ふれあい担当としてトレーナー勤務。その後、パラオ共和国 Dolphins Pacificにて7年間、ハンドウイルカの飼育業務・ふれあい・ドルフィンスイム・ドルフィンダイブトレーナーとして従事。
現在、ドッグトレーナーとして獣医師、グルーマー、トレーナーに犬のハズバンダリートレーニングの実践指導を行っている。

【到達目標】

シェイピングゲームやPORTLを用いて実践力を構築し、海外の動画を用いながら最新のトレーニングを学ぶ。

授業計画・内容	
1回目	マーカー（ブリッジ）とフード
2回目	強化スケジュール
3回目	分化強化
4回目	『選択』ベースと『消去』ベース
5回目	Choice and Control
6回目	脱感作
7回目	『拮抗条件づけ』ベースと『脱感作』ベース
8回目	『オペラント』ベースと『レスポンデント』ベース
9回目	同意行動とボディランゲージ
10回目	エラーレスラーニング
11回目	行動のモメンタム
12回目	プロンプトとフェーディング
13回目	マッチング法則
14回目	評価試験、シェイピングとチェイニング
15回目	前期授業統括
準備学習 時間外学習	授業中に適宜課題を与える。授業内容理解し適宜メモを取ること。
評価方法	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：なし
参考書：Animal Training (Ken Ramirez)　行動分析学入門（産業図書）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ドルフィントレーニングⅡ （　Dolphin Training Ⅱ　）	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	藤井 勝
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限

【授業の学習内容】

1年次に学んだ内容をベースに更に一歩進んだ専門知識や実践力を身につける。

※担当教員実務経験：北海道大学卒業後、ワールドドルフィンリゾート及びワールド牧場にて3年間、ハンドウイルカ・オキゴンドウ・ハナゴンドウ・ケープペンギン・マゼランペンギン・フンボルトペンギンの飼育業務・ふれあい担当としてトレーナー勤務。その後、パラオ共和国 Dolphins Pacificにて7年間、ハンドウイルカの飼育業務・ふれあい・ドルフィンスイム・ドルフィンダイブトレーナーとして従事。
現在、ドッグトレーナーとして獣医師、グルーマー、トレーナーに犬のハズバンダリートレーニングの実践指導を行っている。

【到達目標】

シェイピングゲームやPORTLを用いて実践力を構築し、海外の動画を用いながら最新のトレーニングを学ぶ。

授業計画・内容	
1回目	トレーニングプラン
2回目	強化のタイミングと強化子のデリバリー
3回目	クリーンループ
4回目	リリースキュー
5回目	DRI/DRAを用いた問題行動介入
6回目	先行事象のアレンジメント（マネジメント）
7回目	Functional Assessment (FA) – 行動の機能分析 –
8回目	3Ds (Distance, Duration, Distraction)
9回目	エベレスト登頂で考える脱感作
10回目	シェイピングが対話トレーニングと呼ばれる理由
11回目	ハズバンダリートレーニングが崩壊する大敵
12回目	コントロール不可のレスポンデント反応をコントロール可能なオペラント反応で対応する
13回目	ハズバンダリートレーニングにおけるスモールステップと般化
14回目	評価試験、科学的なトレーニング…『正しさ』と『再現性』
15回目	後期授業統括
準備学習 時間外学習	授業中に適宜課題を与える。授業内容理解し適宜メモを取る。
評価方法	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：なし
参考書：Animal Training (Ken Ramirez)　行動分析学入門（産業図書）

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物研究 (Aquatic Biology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渕上 信好
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3・4限

【授業の学習内容】

1. 画像や文字情報よりも、講師採集の生体および標本(実物)から学び感じる授業。
2. 基礎知識の板書講義は視点を変えたり、繰り返しを厭わず実施。対話を重視する。
3. メモを積み重ねるコトが「習慣」となるように、スケッチブックは毎回チェックし評価対象とする。

※担当教員実務経験:国土交通省遠賀川河川環境保全モニター(審議会・検討会・現場指導):1995年～現在継続中。NPO直方川づくりの会:2006年～現在継続中。

【到達目標】

①大まかな生物分類(門)ができ、なぜ分類が必要なのかに気付く。
②水生生物の生息場所が概ね分かるようになる。
③小さな生物から繋がって行く生態系のバランスが気になるようになる。
④目的に合った図鑑やネット情報の見方が分かる。
⑤イルカや海獣類以外にも本気で好きな水生生物が見つかる。

授業計画・内容	
1回目	①魚類の基礎知識と魚類の体 ⇒ 魚類検索スケッチと検索図鑑 ⑤◆講師研究魚種1「ニホンウナギ」
2回目	①生物の名称(学名・和名:標準和名・地方名・俗名・総称ほか) ⑤◆講師研究種1「オンガスジシマドジョウ」
3回目	①③水生昆虫(カゲロウとカワゲラ) ⇒ ②河川生態系の底辺 ⑤◆講師研究種3「スナヤツメ」
4回目	①②アメンボと水の性質(凝集・打擲)からの実験 ⇒ プロイストン(浮表生物) ⑤◆講師研究種4「イシドジョウ」
5回目	果物アートとパンケーキ ⇒ 魚類・水生昆虫を作る(食育イベント)
6回目	①②⑤博多湾の釣り ⇒ 魚類採集の一方法として体験
7回目	評価試験および振り返り ⇒ 必要があれば補填講義
8回目	①②③二枚貝と巻貝 ⇒ 「歯舌」の摘出
9回目	①②③初夏のロープ付着生物 ⇒ ④無脊椎動物の総合分類
10回目	②③⑤圃場生物(日本の圃場生きた3大化石ほか)⇒ 田圃の生態系と流域治水(田んぼダム)
11回目	①②エビ・カニ類 その1 ⇒ 淡水エビの観察と解剖
12回目	①②エビ・カニ類 その2 ⇒ 食材としての視点から
13回目	①②③④干潟・ビーチ生物分類 ⇒ 魚類稚仔魚を含む総合分類
14回目	評価試験および振り返り ⇒ 追加講義
15回目	年間の振り返り⇒ 水産生物の利用と現状(追加講義)
準備学習 時間外学習	本校図書館の書籍・雑誌を乱読のこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	中間試験 40% 期末試験 50% 授業内評価 10%

【使用教科書・教材・参考書】

使用教科書:特にナシ レジュメ資料を配布 教材:講師採集生物

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水生生物研究 （ Aquatic Biology ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渕上 信好
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3・4限

【授業の学習内容】

1. 画像や文字情報よりも、講師採集の生体および標本（実物）から学び感じる授業。
2. 基礎知識の板書講義は視点を変えたり、繰り返しを厭わず実施。対話を重視する。
3. メモを積み重ねるコトが「習慣」となるように、スケッチブックは毎回チェックし評価対象とする。
4. 水生生物の表現として工作作業を実施。簡単な電動工具や大工道具を使う。

※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター（審議会・検討会・現場指導）：1995年～現在継続中。NPO直方川づくりの会：2006年～現在継続中。

【到達目標】

①好きな生物群をある程度分類できる。
②水生生物を多角的視点からアプローチできる。
③水生生物を工作の視点から表現できる。
④目的に合った図鑑やネット情報の見方が分かる。
⑤イルカや海獣類以外の水生生物2種の説明ができる。

授業計画・内容	
1回目	①④⑤魚類検索スケッチ上級編 ⇒ 検索図鑑を正しく使う
2回目	①④⑤水生生物検索スケッチ上級編 ⇒ 各種図鑑・ネット検索を有効に使う
3回目	②③水産加工食品学 ⇒ 食品の原材料名から加工工程を推定する（添加物の効果を含む）
4回目	①②④イカ・タコ類 ⇒ 頭足類の総合研究 （分類・解剖・料理）
5回目	①④寄生生物と病気 ⇒ 「アニサキス・ニベリン条虫」 ＋ 病原生物の知識講義
6回目	①②④⑤博多湾の釣りと無脊椎動物採集 ⇒ 魚類とクラゲ等の採集・分類
7回目	評価試験および振り返り ＋ ③粘土アート
8回目	①②④仔稚魚と幼生 ⇒ 水生生物の成体になる前の時期を観察・スケッチ ＋◆濃度計算
9回目	①④⑤ウニ・ヒトデ類 ⇒ 棘皮動物分類・観察
10回目	②③⑤ビーチコーミング採集生物分類 ⇒ ビーチコーミングの勧め
11回目	①②④⑤コケ類 ⇒ コケ類の基礎知識と小さな鉢植え作り
12回目	①③⑤水生生物をモチーフにした作品製作 その1 ⇒ 粘土・木工・アクリル絵の具・竹細工
13回目	①③⑤作品制作 その2 ⇒ ◆板書講義（水族館採用試験対策）
14回目	②③作品提出評価 ⇒ 作品提出期限とし仕上げ作業
15回目	年間の振り返り ⇒ 備品のメンテナンス・教室の最終片付け
準備学習 時間外学習	本校図書館の書籍・雑誌を乱読のこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	中間試験 20% 作品評価 30% ノート評価 50%

【使用教科書・教材・参考書】

使用教科書：特にナシ　レジュメ資料を配布　教材：講師採集生物

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	繁殖生理学（Reproductive physiology）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	遠隔授業		(2)	曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

動物の繁殖のしくみを学び、動物関係の仕事をする時には、この知識が活用できるように、よく理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

この科目を受講した学生が、動物飼育の仕事に携わる時、繁殖生理学の知識を持って、行動できることを目的とする。

授業計画・内容	
1回目	繁殖生理学の概要を把握する。
2回目	繁殖生理学についてホルモンの種類を理解することができる。
3回目	繁殖生理学についてホルモンの作用を理解することができる。
4回目	雄の性成熟について理解することができる。
5回目	雌の性成熟について理解することができる。
6回目	性周期について、発情周期を理解することができる。
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	性周期について、発情周期を理解することができる。各動物の発情周期を理解することができる。
9回目	環境要因について生殖の内分泌に影響する要因を理解することができる①。
10回目	環境要因について生殖の内分泌に影響する要因を理解することができる②。
11回目	卵子と精子の受精現象を理解することができる。
12回目	妊娠について、着床と出産を理解することができる。
13回目	人工授精のメカニズムについて理解することができる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

学校図書やインターネット

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物栄養学概論 (Introduction to Animal Nutrition)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて学ぶとともに、飼料の種類・給餌方法などを理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて理解を深め、飼料の種類・給餌方法を適切に判断し、実践することを目的とする。

授業計画・内容	
1回目	栄養と栄養素の説明ができる。
2回目	エネルギー栄養素の説明ができる。
3回目	脂肪・タンパク質の働きが理解できる。
4回目	ビタミンの働きが説明できる。
5回目	ビタミンA・D（脂溶性ビタミン）の説明ができる。
6回目	ビタミンB・C群(水溶性ビタミン)、ミネラルの説明ができる。
7回目	ペットフードの歴史が説明できる。
8回目	中間評価及び振り返り
9回目	ペットフードの種類を説明できる。
10回目	ペットフードの目的別分類が実践できる。
11回目	家庭用食材からのペットフードの作り方を理解できる。
12回目	動物にとっての魚肉、乳製品、玉ねぎの害について理解できる。
13回目	動物にとっての玉ねぎ中毒・チョコレート中毒について理解できる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

学校図書やインターネット

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	海洋生態 （Marine Ecology）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	児玉　建
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日３時限

【授業の学習内容】

前期は海洋生態学を中心とし、後期は陸生動物も含めた進化生態学・行動生態学を中心として実施する。
１年間を通して生態学の基礎を習得し、生物間の相互作用について理解を深める。
特に、海洋の物理的・化学的特性を知り、海洋環境と生物の関係、海洋動物における個体間の相互関係などを学ぶ。

【到達目標】

生態学の基礎的な考え方を習得する。また用語を理解する。海洋環境・生物の関わりを科学的に説明ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション － 生態学とは
2回目	海洋生態学の入口 － 海と陸の違い / 生物の分類 / 海洋環境
3回目	海洋生物の食物関係 － 食物連鎖 / 栄養段階 / 物質循環・エネルギー流
4回目	漂泳生態系① － 植物プランクトン / 一次生産
5回目	漂泳生態系② － 動物プランクトン / 日周鉛直移動
6回目	漂泳生態系③ － ネクトン
7回目	中間試験 － 前半のまとめ
8回目	中間試験解説 － 前半のまとめ
9回目	底生生態系① － ベントス / 生物の分類 / 帯状分布
10回目	底生生態系② － サンゴ礁 / サンゴ礁にすむ生物
11回目	深海 － 深海の環境 / 深海にすむ生物 / 深海の生態系
12回目	統計学に慣れる － グラフの読み方・表し方
13回目	レポート課題 ※教員の出張等に伴う補講としても実施予定
14回目	期末試験 － 前期のまとめ
15回目	期末試験解説 － 前期のまとめ
準備学習 時間外学習	定期試験では、配布資料や授業内容から、正しい情報を理解して活用する能力を問う。 これらの資料を用いてしっかりと復習を行い、その内容を他人に説明できるように練習しておくこと。
評価方法	■中間試験45点, 期末試験45点, レポート10点, 合計100点

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルの講義資料を用いるため教材を準備する必要はない。ただし講義内容は主に以下の文献を参考に作成しているため、更に深く勉強したい場合は役に立つ。
・生態学入門 第2版（日本生態学会 編 / 東京化学同人）・シリーズ現代の生態学5　行動生態学（日本生態学会 編 / 共立出版）
・シリーズ現代の生態学10　海洋生態学（日本生態学会 編 / 共立出版）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	海洋生態 （Marine Ecology）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	児玉　建
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日３時限

【授業の学習内容】

前期の講義を踏まえ、進化の原理や行動生態学な考え方を習得し、生物間の相互作用について理解を深める。
1年間を通して生態学の基礎を習得し、生物間の相互作用について理解を深める。
特に、海洋の物理的・化学的特性を知り、海洋環境と生物の関係、海洋動物における個体間の相互関係などを学ぶ。

【到達目標】

生態学の基礎的な考え方を習得する。また用語を理解する。海洋環境・生物の関わりを科学的に説明ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション － 進化とは
2回目	進化① － 適応度 / 自然淘汰
3回目	進化② － 種分化
4回目	種間競争 － 捕食−被食関係 / ロトカ・ヴォルテラの競争式
5回目	資源をめぐる競争 － タカハトゲーム
6回目	共進化 － 共生 / 寄生
7回目	中間試験 － 前半のまとめ
8回目	中間試験解説 － 前半のまとめ
9回目	性淘汰① － 同性間競争 / 配偶者選択
10回目	性淘汰② － 性的対立 / 配偶システム
11回目	社会行動 － 利他的行動 / 血縁選択
12回目	コミュニケーション － 信号の種類 / 正直な信号 / 騙しの信号
13回目	レポート課題 ※教員の出張等に伴う補講としても実施予定
14回目	期末試験 － 1年間のまとめ
15回目	期末試験解説 － 1年間のまとめ
準備学習 時間外学習	定期試験では、配布資料や授業内容から、正しい情報を理解して活用する能力を問う。 これらの資料を用いてしっかりと復習を行い、その内容を他人に説明できるように練習しておくこと。
評価方法	■中間試験45点, 期末試験45点, レポート10点, 合計100点

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルの講義資料を用いるため教材を準備する必要はない。ただし講義内容は主に以下の文献を参考に作成しているため、更に深く勉強したい場合は役に立つ。
・生態学入門 第2版（日本生態学会 編 / 東京化学同人）・シリーズ現代の生態学5　行動生態学（日本生態学会 編 / 共立出版）
・シリーズ現代の生態学10　海洋生態学（日本生態学会 編 / 共立出版）

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクト (Company Project)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	岩田　陽子
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3・4時限

【授業の学習内容】

マリンワールド海の中道をフィールドに、実際の現場での実践形式の解説から、求められる知識・技術の習得を行う。

※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館マリンワールドにて飼育スタッフとして、海獣課ドルフィントレーナー11年・魚類課2年従事。

【到達目標】

様々な相手に対して、適切な応対・解説が出来る様になる（海洋系専攻1年生対象）

授業計画・内容	
1回目	グループ分け
2回目	基礎知識の習得①
3回目	基礎知識の習得②
4回目	現地での順路決め及び、解説練習①
5回目	解説内容決め及び、解説練習①
6回目	解説内容決め及び、解説練習②
7回目	解説内容決め及び、解説練習③
8回目	解説内容決め及び、解説練習④
9回目	実践を想定しての解説練習①
10回目	実践を想定しての解説練習②
11回目	実践を想定しての解説練習③
12回目	シュミレーション①
13回目	シュミレーション②
14回目	1年生ガイド（評価）
15回目	振り返り・反省
準備学習 時間外学習	解説準備、練習、業界・企業研究を行うこと。
評価方法	授業参加率　20% 準備状況　　40% 解説本番　　40%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナル資料

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクト (Company Project)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	岩田　陽子
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3・4時限

【授業の学習内容】

下記の2つに分かれての演習となる。
解説を中心とした実績を積むとともに、解説に必要な知識を固める。

※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館マリンワールドにて飼育スタッフとして、海獣課ドルフィントレーナー11年・魚類課2年従事。

【到達目標】

様々な相手に対して適切な解説が行える様になる（一般のお客様対象）

授業計画・内容	
1回目	1・2　グループ分け　基礎知識の習得
2回目	基礎知識の習得①
3回目	基礎知識の習得②
4回目	現地での解説内容決め
5回目	解説内容決め及び、解説練習①
6回目	解説内容決め及び、解説練習②
7回目	解説内容決め及び、解説練習③
8回目	実践を想定しての解説練習①
9回目	実践を想定しての解説練習②
10回目	シュミレーション①
11回目	シュミレーション②
12回目	現地にてガイド実践①
13回目	振り返り・改善
14回目	現地にてガイド実践②
15回目	振り返り・反省
準備学習 時間外学習	解説準備、練習、業界・企業研究を行うこと。
評価方法	授業参加率　20% 準備状況　　40% 解説本番　　40%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナル資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	卒業課題	必修選択	必修	年次	2	担当教員	矢作　友規
	（Graduation Study）	授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

入学以来これまで身につけた専門知識や技術の集大成として、学習の成果が卒業に値する実力を修得しているか評価するために、研究発表または実技の披露を行う。

【到達目標】

学習成果（知識・技術）をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表する。

授業計画・内容	
1回目	進級課題とは①　～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方　～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定　～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習①　～自分（班）のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習②　～途中経過の報告～
7回目	実践学習③　～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備①　～パワーポイント作成～
9回目	発表準備②　～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③　～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④　～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤　～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り　～各自（班内）で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自（各班）で意見交換を随時行う。また、もらった意見を次に繋げる学習を行う。
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	業界研修	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
	（ Business Internship ）	授業形態	演習	総時間（単位）	90	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業		（6）	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。
・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。
・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。
・自らの「キャリア」をデザインできる。

授業計画・内容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表（20%） これらを総合的に判断して評価

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	特別講義＆見学 （Special Lecture）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 （1）	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面・遠隔授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・動物業界で必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
・動物業界で必要な人間力を理解し、身に付ける。
・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授業計画・内容	
1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	イベント運営 （Event Management）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各イベント実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 （1）	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。
企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。

※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・企画立案、運営ができるようになる。
・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。
・接客を知り、実践できるようになる。
・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。
・予算管理を実践し習得する。
・スケジューリングを理解し、実践できる。

授業計画・内容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備（50%） ・レポート(50%)

【使用教科書・教材・参考書】

過去のイベント資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	特別課外活動 (Club Activities)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各クラブ顧問
		授業形態	演習	総時間（単位）	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学友会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。

【到達目標】

・チームワークを身に付ける。
・計画性を身に付ける。
・予算管理を身に付ける。
・マネジメントを理解し身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ボランティア活動 （Volunteer Work）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 （1）	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面・遠隔授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。

※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。
・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去のボランティア活動報告書

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	資格取得講座 （Seminar for a Qualification）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	矢作　友規
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 （1）	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。

【到達目標】

・各検定試験、資格試験の合格

授業計画・内容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去の各検定、資格教本

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	内定者研修 （ Practicul Training for Prospective Employees ）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	90 （6）	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先で実践的な研修など現場経験を積むことで、卒業時に即戦力として活躍できるようになる。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1. 就職内定先で業務を行う上で必要な経験を積み、卒業時には即戦力として活躍できる人材になる。
2. 就職内定先で業務を行う上で必要な専門知識・技術を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。
3. 就職内定先で業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。

授業計画・内容	
1回目	就職内定先において業務経験を積む （1）
2回目	就職内定先において業務経験を積む （2）
3回目	就職内定先において業務経験を積む （3）
4回目	就職内定先において業務経験を積む （4）
5回目	就職内定先において業務経験を積む （5）
6回目	就職内定先において業務経験を積む （6）
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	就職内定先において業務経験を積む （7）
9回目	就職内定先において業務経験を積む （8）
10回目	就職内定先において業務経験を積む （9）
11回目	就職内定先において業務経験を積む （10）
12回目	就職内定先において業務経験を積む （11）
13回目	就職内定先において業務経験を積む （12）
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる
準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなど、メモした内容を、ノート、word、excel、にまとめること。
評価方法	日々の業務における日報を就職内定先に提出し、就職内定先の方との面談による振り返りを行い、業務の習得度合いで評価を行う（100%）。

【使用教科書・教材・参考書】

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	特別研究課題 （ Advanced Research Project for Prospective Employees ）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	180 （12）	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先から従来の業務を改善する課題をいただき、どのような改善を行うことが作業の効率化が図れるか、これまで身につけた専門知識技術を総合的に発揮できるようになる。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1. 業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアをまとめることができる。
2. 課題を解決するアイデアを実践することができる。

授業計画・内容	
1回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（1）
2回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（2）
3回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（3）
4回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（4）
5回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（5）
6回目	課題を解決するアイデアを報告し、質疑応答を行う
7回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う（1）
8回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う（2）
9回目	ブラッシュアップしたアイデアを報告し、質疑応答を行う
10回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（1）
11回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（2）
12回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（3）
13回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（4）
14回目	検証結果をまとめる
15回目	検証結果の報告を行い、今回の課題改善の振り返りを行う
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめること。
評価方法	課題を解決するアイデアを実践することで得られた結果を検証し、その報告内容によって評価する（100%）。

【使用教科書・教材・参考書】

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	卒業企業課題 (Graduate Assignment for Prospective Employees)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	180	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業		(12)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先よりお客様が喜ぶようなイベントを考える課題をいただき、イベントの企画・立案を行う。
プレゼンテーション後に企画が採用されたら、その企画を実践する。
実施後には、振り返りを行い就職後の業務に活かす。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1. お客様が喜ぶイベントの企画を立案することができる。
2. 企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションすることができる。
3. 採用されたイベント企画を実践することができる。

授業計画・内容	
1回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （1）
2回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （2）
3回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （3）
4回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （1）
5回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （2）
6回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （3）
7回目	企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションする
8回目	プレゼンテーションでいただいた意見を参考に企画をブラッシュアップし、再度プレゼンテーションする
9回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （1）
10回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （2）
11回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （3）
12回目	企画したイベントの実践 （1）
13回目	企画したイベントの実践 （2）
14回目	企画したイベントの実践 （3）
15回目	イベントの振り返りとまとめ
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめること。
評価方法	イベントの企画・立案力：30% プレゼンテーション力：30% 実践力：40% 上記の3段階に分けて、それぞれの評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】